

平成24年度 実践報告書

◎ 連絡協議会	P. 1
◎ 公開指導（南部中学校）	P. 8
◎ 意見交換会	P. 9
◎ 岩倉市日本語適応指導教室 学習指導案	P.16
◎ 視察・研修・講座	P.23
・ 井上剛(前 岩倉市教育長)を迎えて	P.23
・ 岐阜聖徳大学 視察	P.27
・ 夏期 研修会	P.28
・ 犬山市立楽田小学校 学校視察	
・ 外国人児童生徒の受入れ・サポート体制 ～教育委員会・学校の連携～	P.29
・ 日本語適応指導授業研究会	
◎ 問い合わせ リスト一覧	P.30
◎ 日本語・教科テストの改定(新指導要領に合わせて)	
◎ 指導ユニット・モジュール	P.32
◎ 教材 新規作成・編集, 教材作成用画像の整理	P.32
◎ 翻訳文書 新規作成, 修正分	P.32
◎ マニュアルの改定 第6版	P.32
◎ 個人調査票 内容改定	P.32
◎ 担当者会・研修会	P.33
◎ 外国人児童生徒 追跡調査(H13～H24) 別紙	P.33
◎ 各校での巡回担当者会	P.33
◎ 保護者への情報発信	P.34
◎ 通訳配置	P.34
◎ 平成24年度 日本語能力試験 結果	P.34
◎ 国際理解	P.34
◎ 学校生活と日本語教室についての説明会	P.35
◎ 平成 25 年度新入児 入学オリエンテーション	P.36
◎ 情報提供会 ～外国人児童生徒の将来について～	P.37

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 連絡協議会

平成24年4月18日

議事進行 指導主事 高橋

1 会長あいさつ（教育長先生）

こんにちは。前任の井上剛教育長先生が3月31日でご退職になり、4月1日からこちらの方で着任いたしました長屋勝彦と申します。会長という立場ですので、お世話をおかけいたします。よろしく願いいたします。

この場にあった話かどうかわかりませんが、前任は犬山市立犬山中学校というところにおりました。子どもたちにはなるべく出会いとか発見とか感動を多くしたいと思い、自分の学校では、外国の子たちと関わることが多かったです。とりわけインドネシアとは4、5年まえから交流をしており、



ちょうど昨年7月8月に10日間かけて子どもたちを連れて、インドネシアの私立の学校にお世話になって、全てホームステイで生活しました。ずいぶん理解があって裕福な家庭だったので、大事にされるんですけど、中学生の子は英語が少ししゃべれて、お母さんはほとんどインドネシア語、おばあちゃんはしっかりとインドネシア語で生活をしてきました。

食事から全て大事にされるんですけども、何が何だかわからずに生活をしていて、とてもわくわくするような生活はしたんですけど、もし自分がこの場におかれて、そのまま現地で生活をしなければならない状況になったら、ずいぶん辛いだろうなど、そんなことを考えたことがありました。これは今、岩倉市の中へ家庭の事情とかお父さんのお仕事の都合で来ている子どもたちも同じような状況なのかな、ということを考えることがあります。

自分は、かつて岩倉南小学校とか、岩倉南部中学校の方に勤めていたことがあるんですが、南部中学校で10数年前に勤めていたときに、やはり外国籍の子が結構いました。適切な表現ではないんですけども、問題行動を起こす確率がやや高かったことがあり、この子たちが早く卒業してくれないかなと願ったことがありました。でも、後で考えると、何の解決でもないんですけども、そんなことを思った時代がありましたし、実際、子どもたちもずいぶん悩んだのかなと思います。

その後、南小学校で勤めていたときに、やはり外国籍の子たちがいて、同じように指導に右往左往して、担任の先生方が指導のマニュアルもなく、ずいぶん悩まれたことがあります。当時、これは7、8年前なんでしょう、何とかこの子たちが学校に適應できるようにならないかなということで、村瀬先生たちが、多分その頃中心に悪戦苦闘されながら、何とか学級、学校に入る前に日本語の適切な指導を受けて、生活が最低限できるようになってから、学校生活を送れないかなと、そんなことを模索しながら、徐々に今のよう形になってきたことを覚えております。ずいぶんその過程の中で、村瀬先生を中心にご苦勞があつて、現在みたいに多分日本で唯一こんなすばらしい体制を持った組織ができてきたのかな、と思います。

今回10名の方が担当されておりますけれども、本当にベテランの方から、あるいは手がけ始めて意欲に燃えてみえる方から、あるいは意欲はあるけれども今年初めての方などがみえるかと思ひます。ぜひ、今までのこうした実績を踏まえながら、村瀬先生を中心にお力を高めて頂いていって、外国籍を持ちながら、日本の中で馴染もうとしている岩倉の子たちのために、ご努力をいただければありがたいなと思ひます。

つひては最後の部分になるんですけども、外国籍の子たちの指導をしていく上で、多分先生方もお困りになることが結構あるかと思ひます。ぜひ、横の連携をしっかりとっていただいて、同じような指導方法も含めて、平等に岩倉市の子どもたちが、適切な指導が受けられるように、そんな研修会や連絡会なども催しながらすすめていって頂きたいなことが一点です。

それからもう一点、今日ちょうど校長先生方と担当の教務の先生方がお見えになりますけれども、自分が校長をやっているときには、学校の情報を全部得ようとしても、なかなかできないことが多いんですよね。努力してもなかなか頭に入っていないことがあります。先生方が外国籍の子どもたちのために一生懸命指導なさっていることは、理解しようと思ってみても、それでも抜けることがございますので、ぜひ学校の中で指導されたり、子どもの状況がこんな風だよということをできるだけこまめに、校長先生に、子どもたちは今、こうで、こういう風な状況ですというようなことを報告していただけると大変ありがたいな、ということだと思います。そのもとで、できたら月一回とか機会を見つけて、全部の先生方にそういう話もするような機会があると一層先生方も理解して頂いて、あるいは学校の先生方も、子どもたちを理解して声のかけ方も違って来るかなと思います。そんな風にぜひ皆さんにご努力を頂きたいなと思います。ちょっと長くなりましたが、以上で最初の挨拶に代えさせていただきます。ありがとうございました。

2 自己紹介

① 教育委員会（管理指導主事、指導主事）

・ 課長

岩倉を代表する事業。どこに外国人がいるのかわからないというほどなじんんでいる。予算面などがんばって確保し、協力していきたい。

② 校長会長（岩倉中学校）

③ 在籍校校長

・ センター校校長－東小・南部中、五条川小、曽野小校長

④ 教務主任

⑤ 養護教諭代表（センター校養教－南部中、東小）

⑥ 日本語担当 紹介

- ・ 村瀬 英昭－ 主任（事務局）【12年目】
- ・ 加藤 洋子－ 南部中在籍 副主任【1年目】ポルトガル語
- ・ 前川 佐和－ 南部中在籍 【2年目】
- ・ 樋口 恵菜－ 南部中在籍 【1年目】
- ・ 田野岡 幸－ 南部中在籍 【1年目】
- ・ 梅谷 陽子－ 岩倉東小在籍 【4年目】 スペイン語
- ・ 村田 知美－ 岩倉東小在籍 【3年目】ポルトガル語
- ・ 池田 恭子－ 岩倉東小在籍 【1年目】
- ・ 長谷川まどか－ 五条川小在籍 【2年目】
- ・ 森島絵里香－ 岩倉中在籍 【4年目】

※ 日本語教育専攻者－6名、海外生活経験者－6名

⑦ ブラジル人講師 紹介

- ・ ポルトガル語－オテロフェルナンダ【1年目】
- ・ 学校生活適応指導－平野【2年目】



3 日本語・ポルトガル語適応指導教室より

（1）諸連絡および配布物

- ・ 日本語担当者のうち2名は、常勤講師の研修会に参加しているため、本日欠席（前川、池田）
- ・ 現在は12名体制。村瀬とブラジル人講師の二人から始めたが、12年目にして12名体制にまでなった。
- ・ 長年二人三脚でやってきた水上先生が帰国されたが、東浦で経験を培ってきた加藤先生を始め、意欲のある新しい担当者が加わった。
- ・ 日本語教育を専攻していたり、海外生活をしていたり、専門的な経験は多いが、教師経験は少ないものが多いので、厳しい指導をお願いしたい。

① 連絡協議会組織図（配布済み）

② ステップ別指導一覧表

- ・ 昨年度までのものを修正

③ ステップ別 標準指導時数

ユニット配当コマ数

- ・ これまでは、このような計画を立ててこなかった。各担当者が大まかな中で個人に合った内容を判断し、指導していた。
- ・ 一昨日指導主事とも話し合い、「ユニット」は「指導時数」、「コマ」は「モジュール」と表現を改めた。



④ 年間指導ユニット配当計画 ステップ・学年・月別

⑤ 日本語(国語)指導カリキュラム

- ・ 学校教育の中での日本語指導なので、日本語指導＝教科指導の面が強い。
- ・ 日本語指導と教科指導をタイアップさせるもの
- ・ 小6までのカリキュラム作成済み

⑥ 年間予定表

⑦ 巡回担当者会（案）

- ・ 3年前から始めた。いつも担当者だけで担当者会をしていると、温度差が生じたり、思いが伝わらなかったりする。各校にお邪魔して直接話ができる機会を持ちたい。

⑧ 保護者会通訳配置 予定表

- ・ 1学期はどの学校にも通訳を配置できそう。
◎2名配置 ○1名配置 △中国、フィリピンの通訳が可能という意味。
- ・ 2学期は難しい。東小70名、南部中学校40名が同日程となっている。
担当者の中でポルトガル語が堪能なものが対応する。
- ・ 来年度の保護者会の日程を決める場合、早い段階から教務主任者会などで調整して頂きたい。

⑨ 日本語・ポルトガル語適応指導教室のあゆみ

- ・ これまでは、担当者の入れ替えが多かったが、今は意欲を持って担当者になっている者が多く、今後も続けていきたいと言っている者がいるので、担当者の入れ替えは少なくなっていくのではないかと思います。

⑩ 外国人児童生徒の学習・家庭環境

- ・ 定住化傾向が非常に進んでいる。
- ・ 生まれも育ちも日本という子どもも増えており、そういった子どもたちへの指導はどうするのかという問題がある。子どもは、日本語で生活しているため流暢に話せるが、保護者は日本語を話せないことがあり、家では宿題などで親のバックアップがない。しかし、ハンディキャップを持ちながらがんばっている。
- ・ 学校によって状況が全く違うため、各学校ごとのものを後日交換箱で送る予定。

⑪ 平成23年度 外国人児童生徒 進学・就職先

- ・ 高校進学希望が多いが、現実として厳しい。しかし、進学率は高くなってきている。
- ・ 日本語能力試験N1、N2クラスの進学率が高い。小学校高学年以上に来日した子どもは難しい。こういった子どもへの指導を検討したい。

○ 高橋指導主事

定住化傾向にあると言うが、そういった現状でも、母語指導は親や本人からのニーズがあるのか。

○ 回答

- ・ 東小学校のブラジル人においては、新1年生は希望が少なかったが、2年生以上の児童はほぼ受けている。日本で生まれた子どもについても学習したいという意欲がある。
- ・ 母語はアイデンティティにも関わる問題なので大切にしたいと考えている。保護者、本人がやめたいという場合もあるが、自分の母語が話せないことは残念なことである。
- ・ ポルトガル語指導を行っているのは全国でもまれで、東浦でも母語指導の必要性を感じていた。日本語もポルトガル語もどちらも限られたダブルリミテッドという状態になっている生徒がいたり、ブラジル人であることを隠そうとする生徒がいたりした。
- ・ 子ども自身は必要性を感じていないことがあるが、保護者の希望は強いと感じている。



⑫ 学校視察・問い合わせ

- ・ NHKの取材が来ており、来週、南部中学校での指導の時に取材にくる。
- ・ 愛知県の語学相談員から学校生活適応指導についての問い合わせがあった。

⑬ 在籍状況（4月9日－156名）（交換箱で配布済み）

- ・ 年々増加している。これは岩倉市だけの特色で、他市町は減少している。全国的にはブラジル人が約2万人帰国したと聞く。
- ・ 岩倉市は製造業が少ないため、大きな被害を受けなかった。

⑭ 個人調査票・正式名一覧・追跡調査（各校1部配付）

- ・ 学級の連絡票と一緒に保管してほしい。
- ・ 正式名については、現段階でわかっている範囲で記してある。間違っていたら、連絡してほしい。

⑮ 今年度の取り組み

- ・ 日本語テキスト 試行版（小学1年生～中学3年生まで、各4教科）
- ・ 指導カリキュラム（指導項目）
- ・ 日本語・教科テストの改定、評価方法の再考
- ・ テストと評価をどうするかが日本語指導の課題であった。
- ・ テストの改訂を行っている。
- ・ 指導カリキュラムについては、昨年度小学校版はほぼ完成したが、中学校に関しては、新指導要領にあわせて作成中である。
- ・ モジュールを活用してよりよいものに改訂したい。

⑯ 巡回指導について

- ・ 児童生徒の増減や日本語能力に応じて、臨機応変に変更。
- ・ 各校の授業参観や学校訪問の日も時間割通り指導を行う。

※ 各校、曜日変更などへの対応はできない。

- ・ 時間割変更や行事などで、指導がなくなった場合、担当者の方まで連絡してほしい。
- ・ 学校訪問、授業参観の時でも支障がなければ、通常通り巡回指導を行う。

⑰ 学校生活適応指導（集中初期指導）

- ・ 受け入れ時に、該当するかどうか随時相談。

⑱ 岩倉市 市内7校 年間行事予定表（メールで配布済み）

⑲ マニュアル（校長先生・教頭先生、教務主任、養護教諭向け）

- ・ 在籍校での役割（P6ー校長先生・教頭先生、P5ー教務主任）
- ・ 指導要録の書き方（P27ー教務主任）

※ 変更箇所 岩倉市子ども保険ー中学3年生まで適用

- ・ 保険で3割負担だったのが、今年度から中学生まで無料となった。
- ・ スポーツ振興センターに加入していれば、1割だけ戻ってくる。養護教諭がそのための文書を作成中。
- ・ 保険に入っていない外国人は要チェック。保険に入っていない外国人のリストは、個人調査票に載っている。
- ・ 外国人の受け入れ手続きの時に、保険に加入していない場合の同意書を必ずとってほしい。HPに受け入れ手続きの書類がある。連絡をしていただければ、それぞれの学校の責任者が行く。必要に応じて通訳も手配する。
- ・ 担任向けQ&A ハンドブック



⑳ 平成23年度 実践報告書

(2) その他

① 書類関係

- ・ 受入れ手続ー各校、教務主任、学年で対応。
通訳が必要な場合連絡をしてください。
- ・ 翻訳文書ーホームページに掲載（担任へ連絡）
- ・ 日本語教育が必要な外国人児童生徒 報告ー原則、各学校から提出

② 公開指導、意見交換会ー 南部中学校で実施 10月か11月

- ・ 昨年度より、東小学校、今年度、南部中学校、隔年で実施
- ・ 昨年度から岩倉市全体の区長さんに案内を出している。

③ その他

- ・ 日本語学級適応指導教員
- ・ 在籍校における位置付けがはっきりしていない。
- ・ 現在、市に10名、枠外加配されている。（中：5名 小：5名）
- ・ 児童生徒の在籍状況や職員数などを加味して、現在の担当者の在籍状況となっている。
- ・ 巡回を行う場合、兼務命令が出されており、拠点校方式で行っている。
- ・ 現職教育も適応指導教室として行っている。
- ・ 長年ずっと加配されていると、職員の枠内に収められていく。校務分掌、学年の仕事、担当の仕事を平行してこなしていかなければならなくなる。
- ・ 在籍している以上、協力できる範囲で協力していきたいと思っている。
- ・ 東小学校に関しては、職員数が少ないので、遠足など児童の安全に関わることは巡回指導を中止してでも全面協力している。
- ・ 話し合いを重ねてよりよいものにしていきたい。
- ・ 校長先生や教務の先生など上部の先生たちにはある程度理解していただい



ているが、担任の先生方にはなかなか理解していただけない。

- ・ 日本語担当者在籍校の先生方に対して、私たちはあくまでサポート役であるという認識をしてもらいたい。
- ・ 学校生活適応指導を受けても、1ヶ月で話せるようになるわけではない。あくまで学校生活に慣れるために行っている。
- ・ 外国人が固まって母語で話しているのを切り離していくのも、日本語担当では限界がある。担任の先生方の力が必要。

○ 高橋指導主事

要録が電子化されていて、正式名称が入れにくいと思うが、手書きで行っているのか。

○ 回答（東小 水野先生）

東小は通称で打ち出し、正式名を手書きで書き足している。

○ 高橋指導主事

4月からの検診で問題はあるか。

○ 回答（東小 養教）

配布物が集まらないという問題はあるが、担任の先生にご努力いただいている。

今年度は、学校生活適応指導に入っている子は全員東小の子だったので、問題なかったが、例年他校の子どもが東小学校で検診を受けることがある。書類の受け渡しなどが大変。

- ・ ブラジル人講師

勤務時間（8:30～16:00）を超過する場合は、村瀬まで。

- ・ 日本語能力試験－7月、12月

○ 堀田校長先生

代表して、最初に感謝とお礼を申し上げます。これだけのスタッフ、メンバーで充実した取り組みができるというのは、やっぱりこれまでの積み重ね、実績はもちろんですけど、それをバックアップしていただいている岩倉市、岩倉市教育委員会のおかげだと思います。

本校でも本年度より森島先生に来て頂きました。やっぱりいるだけで、という失礼な言い方ですが、いてくれるとすごく安心感があります。ただ、お手元の資料の中に、23年度の卒業生の動向がありますよね。全部で19人いるんですけど、そのうち、南部中学校が17人、岩倉中学校2人です。すごくアンバランスなんですけど、これがそのまんま各学校の実態だと思います。ですから、これを調整しながら同一歩調で仕上げて、全部が同じようにやっていけるようにするための今日のこの会だと思っていますので、ぜひ今後も、村瀬先生を中心に、学校の方も全面的に協力しながら進めていきたいと思っています。ヘルプ、と言われれば、いつでも飛んでいきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

○ 御指導（藤田管理指導主事）

まず、12年目ということで、11年の年月があって、最初は少人数から始まってきたのですが、大分熟成をされて。全国的にも表に出しても全く恥ずかしく



ないようなシステムができあがってるんじゃないかなと思います。日本人でも教科の言葉というのは難しいですよね。そういうのも交えながら、ユニットやコマやら、1時間を1単位時間とし、4つにわけて、4つの内容をずっとやっていくという、それが日本語であったり、教科であったりという風に進められて、本当に内容が熟成されていいなあ、と。今後もより熟成をとしたいと思います。

今年は、新しい方が4人も、それもですね、知多からとか、東京からとか、奈良からとかいう、ご経験をされた方が来てもらっておりますので、そういった新しい風を入れて頂いて、または、一番多い経験でも4年



目ですので、そうすると新しい発想も出てくる頃だと思えますから、また新しい風を入れてもらって、より熟成したものへとお願ひしたいと思えます。

今日の話の中にも母国語の保持という、保持伸長というのがありましたけれども、愛知教育大学附属小学校や中学校には帰国児童生徒の学級がありまして、ここはほとんどが英語圏なんですけれども、また日本人学校というか、また外へ行く可能性ももちろんあるんですが、ほとんどは向こうで生活をして、こっちへ帰ってきてそのまま日本へ定住するということです。でも、やっぱり一度身につけた英語、素晴らしい英語力がある子は多いんですけれども、その英語力はやっぱり保持伸長すると、その後、バイリンガルというのは非常に力を発揮するということで、その帰国子女の教室は、英語の時間がネイティブの先生も交えて、多くしてあるんですね。そういう意味で言うと、ブラジル人もここへ来て、帰国の予定がある子はもちろん保持伸長するのは大事ですし、ここでずっと生活したいという子も二カ国語が話せると、日本語以外の言葉が話せると、またそれも力になって、将来の進む道の方向も広がるし、生かせるんじゃないのかな、日本とブラジルとのパイプ役にもなれる可能性があるのも、これは本当に岩倉市の母国語・ポルトガル語の保持伸長というのはひとつ特徴となるし、続けていってほしいと思えます。

それから、先ほど進路の話もありましたが、往々にして、やっぱり小学校高学年、または中学校から入ってくる子は苦しいですね。小学校低学年、または、もっと前から日本にいる子は、表を見ても、高等学校、または専門学校というところ、または定時制に進学をしている子が多いですけれども、ということは、小学校の高学年、中学校で入ってくる子に、より手厚くしていかなければいけないなど、ひとつの課題というか、これはなかなか解決できないとは思っていますけれども、大きな力を注がなければいけないなど、自分も南部中学校にいて思いました。

特にこれから入ってくる子には、日本の風習とか、慣習とか、日本の学校とか、教育課程とか、日本の学校というのは、こういうことをやるんだよということが、なかなか身に入っていないので、学級担任は、外国人であろうが、日本人であろうが、クラスの一人として指導しきれないのが現状だと思います。

そこで、日本語担当のここにいる10人の先生がたが、違った対応、違った支援とか、違った指導をし、個々にあった指導支援をしてもらって、学級や学校に馴染ませてもらうということをお願いしたいな、ということをお願ひします。

時にはですね、午前中違う学校に行って帰ってきてから給食をとろうと思うと、なかなか給食の時間がずれたりして、難しいとは思っていますけれども、午前中も自校、午後も自分の学校ということだと、外国人のいる教室に行って、一緒に給食を食べて、どのような生活というか、みんなと一緒に生活しているんだろうかということ把握してもらうことも必要だと思いますし、そんなようなことでですね、より熟成した、この適応指導教室になるといいなど。

自分も立場は変わりましたが、できることはやっていきたいなと思えます。よろしくお願ひします。

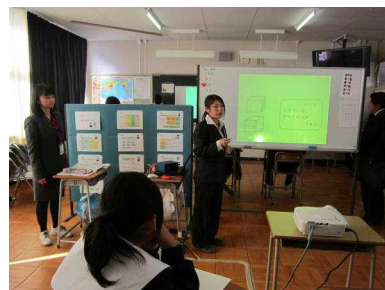
◎ 公開指導（南部中学校）平成24年11月20日（火）2時間目 9:45～10:35

○ 指導場所及び指導内容等

指導内容	ポルトガル語指導	日本語初級指導	日本語中級指導	日本語上級指導
指導教室	視聴覚室	日本語指導教室	日本語指導教室	視聴覚室
外国人生徒の状況及びねらい	日本に長く住んでいる生徒は母語であるポルトガル語を忘れてしまい、親とのコミュニケーションがとれなくなったり、帰国したときに不自由したりする。そこで、母語を保持するとともに、ブラジルの教育を取り入れて指導している。	在日期間が短く日本語が十分身に付いていない生徒に対して、読む・話す・書く力を伸ばす指導を行うとともに、教科の基礎的な内容を補う指導を行っている。 また、日本の生活習慣についての指導も行っている。	日本語での日常会話に支障はないが、教室での授業についていけない生徒に対して、現学年の学習補助指導を行っている。 また、今後、日本で生活していくために必要な知識を身に付け、将来の目標と自信をもたせる指導を心がけている。	日本語の能力が高く、教室での授業内容も理解できる生徒に対して、より高い目標を設定し、意欲をもたせるために日本語能力試験対策の指導を行っている。日本語能力試験N1・N2に合格すると、将来、資格として認められるという利点がある。
指導者	ブラジル人講師	日本語担当者	日本語担当者	日本語担当者
本時に指導する外国人生徒	・1年生 3人 ・2年生 1人 ・3年生 1人	・1年生 2人 ・2年生 1人	・2年生 2人 ・3年生 2人	・1年生 6人 ・3年生 1人

日本語初級指導（日本語教室）

- 日本語
 - ・ 「あげる」・「もらう」・「くれる」を場面に応じて正しく使い分ける。
- 漢字
 - ・ 小学校1・2年生の漢字を使った熟語の読み方を覚え、意味を確かめる。
- 算数
 - ・ 立体図形の名前を覚える。
展開図からどのような立体図形ができるかを考える。
- 社会
 - ・ 緯度・経度を使って、世界の国々の位置をとらえる。



日本語中級指導（日本語教室）

- 古典の言葉
 - ・ 歴史的仮名遣いの読み方と、現代語とは意味の異なる古語を覚える。
- 百人一首の情景
 - ・ 四季の美しさや情熱を歌に込めた、古典ならではの趣きある短歌にふれ、現代語訳を想像しながらその情景を味わう。
- 日本で暮らす私たち
 - ・ 日本の良さと母国の良さを再確認し、日本で生きていく自分の将来を見つめるきっかけを作る。



日本語上級指導（視聴覚室）

- 日本語能力試験指導（N1レベル）
 - ・ 漢字の読みを覚える。
 - ・ 文字・語い，文法問題を解く。
 - ・ 聴解問題に取り組む。
- 慣用句



ポルトガル語指導（視聴覚室）

- 形容詞，名詞の男性形・女性形
- 活用のきまりと使い方
- 正しいつづりと発音



◎ 意見交換会 平成24年11月20日(火) 10:50～11:50

- 参加者－61名
 - ・ 市議会議員 4名
 - ・ 学校教育課 3名
 - ・ 市内校長・教頭 4名
 - ・ 教務主任 2名
 - ・ 区長，団地自治会 2名
 - ・ 民生委員・児童委員 1名
 - ・ 岩倉市国際交流協会 1名
 - ・ 市外学校関係 17名
 - ・ 市外一般 15名
 - ・ 日本語担当者 10名
 - ・ ブラジル人講師 2名



【意見交換会の流れ】

- 1 あいさつ(教育長，会場校校長)
- 2 出席者自己紹介
- 3 日本語・ポルトガル語適応指導教室について(主任)
- 4 意見交換，質疑応答
- 5 終わりの言葉(管理指導主事)

- 教育長 あいさつ
おはようございます。

日本語・ポルトガル語の公開研究会の形でご案内を差し上げましたところ，こんなにたくさんの方に意見交換会にまでお残りいただきましてありがとうございます。どうだったでしょうか，感想は。今でこそ落ち着いた雰囲気の中で学校としっかりとマッチしながら，子どもたちに丁寧な指導が多少なりともできるようになってきましたが，過去においてはなかなか大変な時がありました。実は南部中学校に十数年前に勤めていたり，あるいは岩倉にも勤めておりましたので，そんなこ



とを紹介しながら挨拶にかえさせていただこうかと思えます。

かつて、この学校では本当に大変な時代がありまして、パッと廊下へ出ると、廊下を自転車とか自転車以上のものが走っていたりとか、窓の外から、歩いていると罵声が飛ぶのは当たり前、牛乳瓶が飛んできたり、机が降ってきたりとかそんな時代がありました。多くの方が退職をなさっていくという時代でした。

もちろん、地域の子どもたちの中には家庭環境が恵まれない日本人の子たちもいたんですけど、外国籍の子もけっこう多くて、それが本当は理由じゃないんでしょうけれど、そういうことを理由だと思ってしまったりとか、あるいは就学義務のない子たちがたくさんいるから、その子たちが原因ではないかと思ってしまったり、当然のことながら積極的な学校への就学のことを言わないので学校へ来てもたむろしていてなかなか教育活動ができなかったり、あるいは、出入り自由だったもので外に行けば外でたむろしたりしている実状があったりしました。夜は夜で深夜徘徊している。そんな状況でした。当然、学校が良くなるはずもなく、早くこの子たちが卒業してくれたらなということを思わないでもない職員も確かにいたわけです。

でも、そんなことを経ながらだんだん考えていくときに、最終的に卒業しても、市の中で職がなくてぶらぶらしていることがあり、この子たちが良くなると市が良くなれないし、市が良くなれないと学校も良くなれないということを分かってきたんですよね。ですから、地域の方にもすごく協力をしていただいたり、地域の方にボランティアで助けていただいたりとか、あるいは学校の中でもこの子たちを就学義務がなくても全員学校へ来るように、来た子どもたちに日本へ来てなんとか日本の生活に慣れてよかったなと思えるような、そんな感じをもたせなきゃいけないということを共通理解してくるようになったんです。当然のことながら、小学校中学校がばらばらであってははいけませんし、中学校間でもばらばらであってははいけません。

ちょうどそんな頃、村瀬先生が、平成13年度に県からご指名を受け、日本語の指導にあたるようになったんですが、市全体で共通理解をして、なおかつ子どもたちへの思いも、あくまで学校生活にきっちと慣れさせ、それだけではなくて、日本に来てよかったな、居心地のいい学校だな、ひいては、いい岩倉市民になっていくといいな、そんな願いを込めて指導する初期の積み上げでこんなふうになってまいりました。なかなか大変なところもあり、まだ今後も課題もたくさんあるんですけども、村瀬先生が試行錯誤しながら、一応、今日見ていただいたような自作教材だとか、市全体で統一をしようとか、市と連携をしながら地域と連携をしながら保護者と連携をしながら、助けていただくこんな体制ができてきました。

多分、今日、参加されている中には岩倉よりも進んでいるところもあるでしょうし、これからこうした取り組みをなさるところもあるかと思えます。これから取り組みをなさるところには少しでも参考にさせていただくように、そしてまた進んでいるところは少しでも助言、アドバイスやお言葉をいただくようなそんな会になるといいなと思えます。やはり試行錯誤をしながら第一歩を踏み出していくことの大切さを改めて感じますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただきたいと思います。今日はどうもありがとうございました。

○ 会場校 校長あいさつ(南部中学校)

こんにちは。

本日はご多用のところ大勢お越しいただきまして本当にありがとうございます。会場校の校長ということで、日本語・ポルトガル語適応指導教室に関わる本校の様子を少しお話ししたいと思います。

学習指導要領あるいはその解説書を読みますと、外国人生徒の指導に関しまして、その実態は様々であるから、それらを的確に把握し、その生徒が自信や誇りをもって、学校生活において自己実現できるように配慮することが必要である、そんなことが書かれております。それ



を受けまして、本日配られましたレジュメに示されております、岩倉市日本語ポルトガル語適応指導教室の理念というものが打ち出されて、理念に基づいた実践が本校でもなされております。

さて、本校でございますが、全校生徒435名のうち、1割弱の41名の外国籍生徒が在籍しております。その子どもたちの様子を一言で申しますと、担当者の長年の努力によりまして、大半は落ち着いてしかも意欲的に学校生活を送っております。部活動などにも所属しまして元気に活動しております。配られました冊子の最後のところに、村瀬主任を中心とする担当者の熱い思いが綴られておりますが、そこに書いてあるとおり、子どもたちの家庭生活の背景を十分に把握した上で、現在のことだけではなく、将来のことも視野に入れた指導体制が組まれていることがよく分かります。今日も授業の様子を見ていただきましたけれども、ふだん授業をのぞかせてもらいますと、一人一人の実態に合わせたきめの細かい指導がなされていることがよく分かりますし、指導のための教材も非常に多種多様で充実しております。また、授業だけではなくして、学校行事において、子どもたちが母国について発表する機会を意図的に設けて、一般生徒の認知度もより高めてもらう努力もしてもらっていますし、日常生活の中で壁にぶつかったり、悩んだりしたときには本当に親身に相談にのってもらっております。

村瀬主任が、「日本一愛のある日本語指導教室」と照れながら言うことがありますけれども、本当にその通りで、本校での指導に限らず、スタッフ10名がいつもあたたかい姿勢で子どもたちと向き合ってくれております。このように様々な面で、学校生活への適応への支援、力添えをしてもらっていますので、ほとんどの子どもたちは学校にすっかり溶け込んでおります。

以上、大雑把で申し訳ありませんが、本校の様子でございます。

本日は、各市町の担当の方々もたくさんお見えになっているというふうに聞いております。時間は限られておりますが、忌憚のない意見交換を通して、実りのある会にしていだけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 参加者の自己紹介(61名)

○ 日本語・ポルトガル語適応指導教室について(主任)

① 目的・特色・理念等(別紙資料)

- ・ 外国人児童生徒の学校生活適応が、落ち着いた学校、落ち着いた地域作りに結びつくという理念のもと、日々の学習、生活指導を行っている。
- ・ 各学校独自ではなく、市全体として取り組んでいるのは全国で岩倉市のみ。

② 取組(4本柱)について

- ・ 学校生活適応指導(ステップ0,週20時間)
 - ー 集中方式、東小学校
H24ー岩中2名(フィリピン)、南小4名(フィリピン)、
東小4名(ペルー、ブラジル)、五条川小1名(フィリピン)
- ・ 日本語指導(ステップ1～4,週1～5時間)ー取り出し・巡回方式
少し前までは、高校進学を目標に掲げてきたが、最近は、公立高校進学を目標にしている。
- ・ 日本語能力試験指導(希望者、週1時間)ー取り出し・巡回方式
将来のため&学習目標を持たせるため
- ・ ポルトガル語指導(ブラジル人,週1時間)ー取り出し・巡回方式
全国で岩倉市が一番早く取り入れた取り組み。
保護者とのコミュニケーションをとれるように

③ 外国人児童生徒の学習・家庭環境

④ 中学卒業後の進路



- ⑤ 平成23年度日本語能力試験結果
昨年度、受験希望者26名（合格19名、不合格7名）
- ⑥ 外部からの問い合わせ、視察(主なもの)
NHK一取り組み取材
岐阜聖徳大学「母語教室」参観
岐阜県各務原市教育委員会 カリキュラムについて
熊本県立大学 大学生 共存できる教室アンケート
大阪府豊中市教育委員会 受入・サポート体制



○ 南部中外国人生徒からの発表

私は、4歳の時に日本へ来て、3年生の時にブラジルへ一度帰りました。

中学校に入って、わからないことばやしゃべれないことばが出てきて、日本語教室で聞いたり、漢字の勉強をしたりして、ことばがわかるようになって、テストの時に勉強した漢字が出てよかったなと思います。

家ではポルトガル語で話しています。学校では日本語を勉強していてポルトガル語を勉強できないから、学校でポルトガル語の勉強があるとポルトガル語が書けるようになったり読めたりできるようになるのでうれしいです。

日本語教室は、女の先生が多いから男の先生が増えるといいなと思います。

(生徒への質問)

- ・ ブラジルに帰国したのは、どれくらいの期間か？
→ 1年間
- ・ 高校には進学したいか？
→ 中学校を卒業したら、ブラジルへ帰るかもしれない。
- ・ 将来なりたい仕事は？
→ 弁護士



○ 意見交換・質疑応答

(他市からの感想)

- ・ 教室の中でしっかりとプログラムが作られていて、ステップに合わせた形で授業が行われていて、目が覚める思いでした。何よりも感動したというか心ひかれたのは、子どもたちが非常に落ち着いて先生方のお話を聞いている。そして、一人一人の子どもがうなずきながら一つ一つのステップを分かりながら確実に上がっているなというのが直接見させていただいて肌で感じました。本当にありがとうございました。

(他市からの質問)

- ・ 取り出しをしている生徒たちの教室での様子が知りたいです。

(南部中担当者)

- 教室での学習については、苦勞している生徒がほとんどです。日本語教室ではいきいきと勉強をしても、教室に帰ると下を向いてしまうという生徒が、実際にはたくさんいるのが実情です。

(他市からの質問)

- ・ 教室での様子をキャッチしたり情報交換したりするにはどのようにやっているのでしょうか。



(南部中担当者)

→ 教科担任や担任との連携が全てだと考えており、連絡をとりながらサポートするという形をとっています。教科担任の先生に今日学習する内容を聞いたり、プリントをもらったり、前回やったテストのポイントを聞いたりしています。先行でやることもあれば、追いかけてやることもあります。

生徒は、どの教科でも、分からないことがあれば聞きに来ます。こちらも、苦しんでいることはなんとかサポートできるように努めています。



(団地自治会より)

- ・ 以前は、学校嫌いで行かないという子もいましたが、今は、学校が嫌いで行かないという声は聞かなくなっています。あの子たちにとって学校はいいところだという側面が見えてきています。

ただ、見てみると、通学時間が遅い子がいます。なぜこんなに遅い時間まで登校しないのでしょうか。1年生の頃はちゃんと学校へ行っているけれど、2年生ぐらいになると心配な子も出てきているように思います。先生方は、実態を把握して指導をされていると思うんですが、荒れていた時代が再び始まるのではないかという不安を、住民としては抱えています。

(南部中 校長)

→ 団地でご迷惑をおかけしています。1年生の男子で1名、学校生活に適應できなくて学校から足が遠のいている子がいます。ただこの子はふらふらと出歩くタイプではありません。それから、3年生の女子で2名、朝起きることができなくて、場合によっては昼くらいに登校する子もいます。保護者は仕事に行かなければならず、遅く起きて昼頃来るということです。ただ、登校すれば学校では教室で生活ができています。



(他市からの質問)

- ・ 市全体での取り組みということでうらやましく思います。私たちは現在、学校の他の先生に理解してもらうことから始めている状況です。市に理解してもらうためのステップとして何かよいきっかけがあれば教えてほしいです。

(主任)

→ 市全体の取り組みは自分がスタートした当初からこの形であったため、自分からはたらきかけてこの形になったというわけではありません。岩倉市は小さい市ですが、だからこそできるというメリットがあります。大きな市では、校区などでブロックで分けるという方法が考えられます。しかし、そうした取り組みをするには教員レベルでは無理であり、管理職の先生や教育委員会の理解、支援がなければ難しいです。そのためには「公開する」ことが必要だと考えています。

(他市からの質問)

- ・ 3～4人を一度に取り出すと、個々によってレベルが異なると思いますが、一人一人への対応をどのようにしていますか。

(主任)

→ 一人一人への対応については、2つ考え方があっていいのではないかと思います。一つは、できる限りステップ、能力に合わせたグループで取り出す方法です。もう一つは、似たレベルでの取り出しができない場合には、個別の能力に応じた指導、プリントを用意するなどして対応しています。

(東小担当者)

→ 個別に対応する必要があるときは、別々のプリントや教材を用意してそれぞ

れに対応しながらやることがあります。

(主任)

→ そのためにも、いろんなレベルの教材を用意しておいてその場で取り出せるようにしておく必要があります。毎回、ひとりひとりのイメージを浮かべながらプリントを作っているのはとても間に合いません。基本ベースとなる教材を作っていくためには、長年の蓄積が必要だと思います。

(他市からの質問)

- ・ ある程度のレベルの子どもになると、授業を抜けてくることのほうが弊害になることがあります。どの程度のところで取り出すのをやめる判断をつけていますか。

(南部中担当者)

→ あくまでも、目標は「教室で活躍できること」です。そのため、少しでも理解度が上がってきていると思ったらすぐに時間割編成をし直し、なるべく教室に返すようにという方向で動いております。

(主任)

→ 基本的には、一つの目安として、自作の日本語テストを実施しています。内容的には不備な面もありますが、そのテストで8割を越えているかどうかを目安にしています。また、日本語能力試験でN1を合格しているかどうかを目安にしています。かなり高めのレベルに設定しています。ただ、この目標をクリアした子ども、自分の意思で日本語教室に来ている子はいます。



○ 岩倉北小学校 校長

個人的な感想を二つ、話をさせていただきます。今日お見えの方の中に、お隣の江南市国際交流協会の方がたくさんお見えになっています。女房が大変お世話になっております。女房からずいぶん、江南市の活動の様子を聞いていたわけですが、一度岩倉市の活動を見ていらっしゃい、百聞は一見にしかずだからと言い続けておりました。隣同士の市であり、外国籍の子どもがたくさんいて、同じ悩みを抱えているなということを常々感じておりました。女房は夕方になりますと、家のことを放り出して藤里小学校のほうに出かけております。そういったことで、私もそうですけれども、家族も縁があって外国籍の子どもと接触する機会があるということは嬉しいなと思っております。



最初の、教育長先生のお話の中に、かつての話が出てまいりました。その時に私も南部中学校におりました。その時、岩倉団地を中心とした中で外国籍の子どもがどういう状況で生活をしていたのか、どういう状況で学校に来ていたのか、自分も少しは記憶がのこっております。それからまた縁がありまして、ずいぶん経ってから、岩倉東小学校というところに参加しました。そのときに初めて、主任の村瀬と一緒に仕事をさせていただきました。そういうところからも、今日話を聞いておまして、ずいぶん変わってきたなというふうに実感しております。確かに今現在、子どもたちの中には、日本の子どもたちと同じペースでやれない子もおりますけれども、昔から比べたら全然違うなと思います。村瀬と一緒に仕事をしていた頃、二人でよく話をしました。「東小学校がコケたら、岩倉市全体がコケるよ」と。それが二人の合い言葉でした。ですから、一人でも良い指導者を、人材として確保しなくてはならないということで、立場上自分が校長だったものですから、ずいぶんその時は市教委を脅しました。脅し文句は常にこれです。「東小学校の外国籍の子どもに対する指導がうまくできなかった

ら、岩倉市全体がおかしくなっていくから。それでもいいですか」と、脅しながら少しでも良い人材が欲しいといったのが今、ふと思い出されます。

やはり、学校だけでなく市全体で一つにまとまっていかないと、なかなか大きな力にはならないなど。今現在は、大きな力になってるなどと思います。江南市のほうもがんばってください。

○ 終わりのことば(管理指導主事)

昨年度までは3年間、南部中学校でお世話になっておりました。就任間もない頃に、朝、ブラジル国籍の女子生徒が、目を真っ赤に腫らして、日本語の先生の名前を呼んで職員室に入ってきました。その先生に話を聞いて欲しいということで、廊下の方に出て話をしていました。どうやら朝、お母さんともめたらしく、家を飛び出すようにして学校のほうにきたようです。日本語の先生は、じっくりと話を聞いて、気分を落ち着かせて、かばんも持たずに来ていたものですから、ちょっと家に帰ってかばんを持ってというふうで、お母さんとも話を日本語の先生としてもらって、落ち着いて、その日を過ごしました。そんなふうに、日本語の先生は日本語を教えるばかりではなくて、担当しているその子の生活まで、または悩みの相談までしてくれているということを、就任早々目の当たりにしました。そんなところでこの南部中学校はもっているんだなということを強く感じたことが今でも思い出されます。

適応指導教室ができて、これで12年目になります。今日見ていただいた通り、教材もカリキュラムも熟成をしているというふうに思います。日々実践をしながら練り上げていっているということで、今日初めてお見えの方も多いという話ですけれども、ぜひ参考にしていただければと思いますし、各市町での取り組みの情報をいただいて、また岩倉市も熟成できたらしめることを思っております。

1時間を3つ4つに分けてというような話がありましたが、色々と試行錯誤を重ねた結果、今のところ岩倉市では1時間の授業を4つに分けてやっております。集中力とか、ドリル的な積み重ねが大事ですので、そういうような学習には効果があるというふうに進んでおりますが、ご指導ご示唆をいただければありがたいかなと思います。

そのあと、先ほどにも話題に出ましたけれども、やはり教室での授業の課題というのが、ここにいたときには感じておりました。ただ、個別指導が今のところ手一杯な状況で、これから教室での彼ら彼女らの教科の授業をどうフォローしていったらいいのか、教室に入り込んでフォローするというようなところまで手が回ればいいかなというのは、今後の課題として岩倉市としても思っているところでございます。

資料にもありましたけれども、岩倉市の人口の大体5.5%、6%弱が外国籍の人ということでしたが、児童生徒もだいたいそのくらいです。児童生徒も3000人のうち170名ぐらいが外国籍ですので、大体6%弱です。今、担当者が在籍校を言いましたけれども、南部中学校と東小学校が多いんですね。東小学校は3割5分を越えて4割に届こうかというかんじです。南部中学校は先ほど言いましたように1割ぐらいということですね、そのあたり、学校で独自の事態に応じた対応というのも岩倉市では現在研究を積み重ねているという状況でございます。いずれにしても、学習指導ばかりではなくて、性格や人格形成まで、ベースになる部分をしっかり担ってもらっているということを思っておりますので、今後また、ここにご参加の皆様のご指導ご示唆をいただきながら、岩倉市としてもこれからも熟成していけたらいいなという事は思います。

主任の村瀬のほうで、あそこにずっと並んでいた資料でご入り用のものがあれば相談にのりますということです。市教委や主任にご連絡をくだされば、可能な限りお配りしたいと思っております。また、これを機会に情報交換を進めていけたらと思いますので、ご連絡をいただけたらと思います。

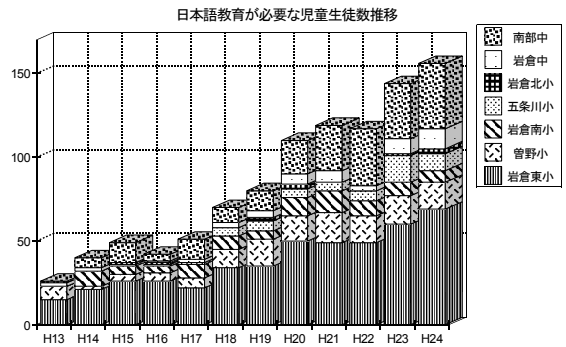
今日は、半日でしたが、お疲れ様でした。



岩倉市日本語適応指導教室 学習指導案

1 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室について

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室創設より12年目を迎えた。当初、4カ国4言語、26名で開始した岩倉市・日本語ポルトガル語適応指導教室であるが、現在13カ国9言語、160名ほどの外国人児童生徒が在籍するまでになり、そのうち約70パーセントを日系人が占めている。来日した時期、理由などは様々であるが、なぜこのように多くの日系人が南米や東南アジアを中心とする外国で生活をし、日本に流入してくるようになったかという経緯をたどってみたい。



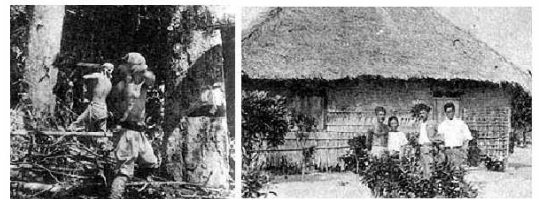
【明治という時代 ～移民の歴史～】

明治維新により、江戸幕府が倒れ、長き鎖国の時代は終焉を迎えた。明治新政府は、近代列強諸国の植民地政策に対抗すべく、富国強兵を中心とする近代化を急速に進めていく中で、庶民に課せられた税金が上がり、生活は苦しくなっていた。当時、日本の主産業は農業であったが、農業に従事する人々が飽和状態になり、農家であふれた農民は他に職を求めざるを得なかった。男は軍人、女は製糸工場などで働き口を見つけた者もいたが、中には子どもを売って明日の食料を手に入れたり、日本での生活に見切りを付け海外で働き口を見つけたりした人もいた。東南アジア各地に日本人街ができたのもこの頃であり、1904年の日露戦争を契機として日本経済は完全に逼迫した状況に追い込まれていった。

一方、ブラジルは、1888年（明治21年）に奴隷制度を廃止し、ヨーロッパからの移民の本格的導入を行ったが、それだけでは、奴隷にかわる労働力としては不足であり、アジア人労働者の導入を行うことになった。

当時、日本ではブラジルへ行けば、「金のなる木がある」と言われ、また、「お国に錦を飾るため」と、1908年に最初の日本移民を乗せた「笠戸丸」がブラジルへ向かうこととなった。彼らの多くは、数年稼いだら日本に戻るつもりであったが、ブラジルでは、思ったような労働条件や賃金体制ではなく、故郷に錦を飾って帰国することは夢でしかなかった。移民の不満は大きくなり、農場を逃げ出す者、帰国した者もいた。しかし、このような状況の中でも、日本人としての誇りを忘れずに、異国の地でたくましく生きていった日本人がいた。日本からのブラジル移民は、太平洋戦争の時に休止していたが、戦後再開し、1973年まで続いた。その間、約25万人が日本から移住したと言われている。

ここで、忘れてはならないのは、ブラジルを生活の場とし、移民としてブラジルで苦勞しながらも生活の糧を得ていった日本人がいたこと。そして、そういう日本人を支えてくれたブラジル人がいたことである。



ブラジルに移民した日本人の生活

出典『日本民族雄飛五大州』（1940）

【ブラジルから日本へ ～人の流れの逆転～】

1980年代、ブラジルでは、経済の低迷により、失業者が増え、凶悪犯罪が増加するようになった。時を同じくして、養鶏など日系人の農業も経営が厳しくなり、多難な道を歩んだ末に定住したにもかかわらず、その子どもや孫たちが、海外へ『デカセギ』に行かなければならない状況になってしまった。

その頃、日本はバブルの真っ盛りで労働力不足に悩んでいた。特に、日本人が避け、人手の足りない3K職種（きつい・汚い・危険）労働力確保のため、日本では、1990年6月、出入国管理及び難民認定法（入管法）を改正し、日系人であれば日本で容易に働けるようにした。その結果、短期間のうちに多くの日系ブラジル人・日系ペルー人などの流入が始まり、日本で生活している日系ブラジル人は約30万人とふくれあがった。現在、日系外国人の数は、中国人、朝鮮人に次いで第3位の位置を占めるまでになっている。ちなみにブラジルで生活している日系人は150万人以上と推定されている。

【「デカセギ」から「定住化」へ】

「海外で働いてお金を貯め、自分の国へ戻る」という想いは、時代の流れを経て、日本で生活している日系ブラジル人に引き継がれた。しかし、入管法改正時は『デカセギ』と呼ばれているように、家族を帯同せず、収入を得るために比較的短期間日本で就労した後に帰国する者が多かったが、近年は家族を伴う者が多く、生活の基盤を日本に移す『定住化』の傾向にある。それにより、公立小中学校に通っている外国人児童生徒もこのまま日本に定住していくことが予想される。

ブラジルの景気が上向きになってきたことに加え、リーマンショック、日本国内の不況、東日本大震災などで帰国を選択した日系人も少なくはなかったが、今も多数の日系人が、ブラジルの地へ移住した日本人と似たような苦勞をしながら、生活の場を日本に築こうとしている。現実、日系人は不況下において真っ先に首を切られる対象となっているものの、再び職を得られることを願って、切り詰めた生活を日本で送る者もいる。経済的にも時間的にもゆとりがなく、将来への不安を抱えながらも日本で根を張って生きていこうとしている日系人。そんな家庭の中で子どもたちは育っている。

【岩倉市の現状】小学校

現在、岩倉市に在籍している外国人児童生徒は、二つのタイプに分けることができる。

一つ目は、日本で生まれ育ったり、小学校入学以前の幼児期に来日したりして、日本の生活になじんでいる子どもたちである。二つ目は、小学校・中学校入学以後に来日した子どもたちである。

最近では圧倒的に前者が多く、岩倉市の外国人児童生徒の中の約85パーセントを占めている。

前者の子どもたちは、幼稚園・保育園に通った経験のある者が多く、会話など日常生活を見る限り、特に問題は感じられないように思われがちである。

しかし、実際に指導をしていると、日常生活で目にするものの語い量の差はあまり感じられないが、教科に関する学習用具や教科用語になると語い量の差を顕著に感じる。

外国人児童生徒と日本人児童生徒の語い量の違いを調査するために実施したテストにおいて、長く日本に滞在している外国人児童生徒でも日本人児童生徒に比べて語い量が極端に少ないことがはっきりした。項目別にみえていくと、日常生活の中でよく目にするものは差があまりないが、学習用具や教科用語などに関しては、顕著に差がみられた。

また、口頭では言えているものも、濁点や伸ばす音などの表記に課題があることがわかった。このような傾向は、日本語力がかかり身に付いている外国人児童生徒にもしばしば見られた。

漢字テストにおいては、訓読みよりも音読みの問題の正答率が低かった。また、熟語になると途端に読むことができなくなる。

計算テストにおいては、筆算を使わなければならない計算や小数・分数の計算になると頭を抱える外国人児童生徒もみられた。

流ちょうに日本語を話す児童であっても、教科や読み書きの力が身に付いていない現状があり、文字指導の必要性も感じた。

人と人とのコミュニケーションを図るための意思伝達手段として、言葉は重要である。外国人児童生徒は、日本語を母語としないため、自分の気持ちを先生や友達に伝える時の表現力が劣り、意思の疎通がうまく図れない場合がある。そんな外国人児童に対して、語い量を増やし、時と場に応じた言葉の使い方を指導することで、コミュニケーションが円滑に図れるようになり、日本の生活に適應することができるようになる。

また、学校生活に適應し、楽しく過ごしている児童でも、学校でしか使わない学習用具の名前や教科書に出てくる言葉など聞き慣れない言葉が理解できずに戸惑うことが多い。

上記のような実態をふまえ、日本で生活できる程度の日本語指導ではなく、日常の学習活動に参加できる日本語力を身に付けるまで指導をすることが大切であると考えている。

さらに、一見、日本語と母語を上手に操っているように思われる外国人児童生徒でも、抽象思考や学習のための言語能力が乏しく、難しい言葉を理解できないダブルリミテッドの子どもが存在する。ダブルリミテッドの子どもは、特別支援対象の児童と同じような症状が見られたり、精神的に不安定になったりしやすい。そんな児童には、心のケアと一人一人のレベルにあった日本語指導や教科指導が必要である。

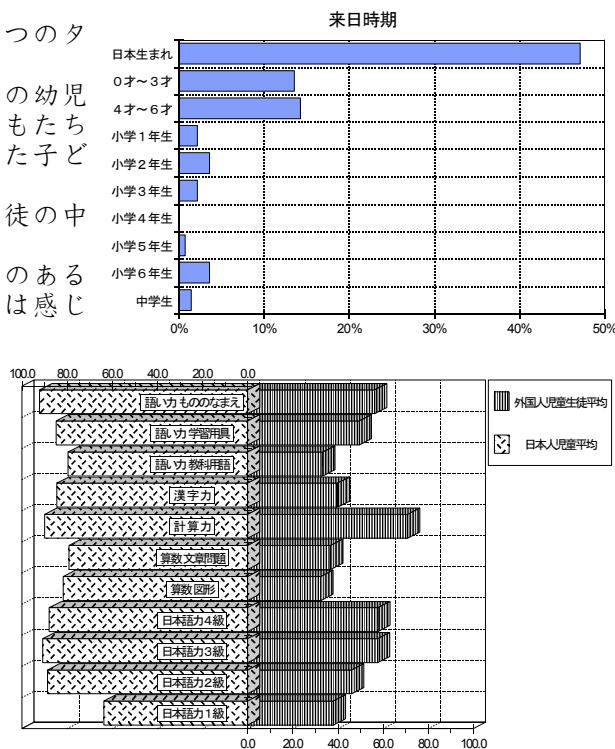
小学校や中学校入学以後に来日した子どもたちは、言葉がわからない上に、文化・習慣の違いで、日々、ストレスを抱えている。言葉の臨界期は8歳から10歳と言われており、今まで、岩倉市に編入してきた外国人児童生徒の実態からも、小学校4年生以降に来日すると日本語を習得することが難しくなるとともに日本の生活習慣に慣れることでも苦勞を強いられる。

外国人児童生徒は、今後、ずっとハンディキャップを背負って生きていかなければならない。親の都合で日本に住むこととなった子どもたちは、本当に幸せなのだろうか。

日々、自分の将来がどうなるのか不安な気持ちで生活している外国人児童生徒がいる。その中には、「中学校を卒業したら工場で働くから勉強は要らない」と、夢をもてない子どもや帰国するかどうか分からなく学習に身が入らない子どももいる。

10年ほど前は3年サイクルで帰国する日系人も多く、子どもも、帰国が前提であったが、最近は、「定住化」してきており、保護者の約半数は日本の高校への進学を希望している。小中学校で認められ、誉められ、日本語を覚え、日本での思い出を作れば良いという時代ではなくなった。彼らの学びを保障し、彼らの将来への礎と日本の将来を担う一員として教育していかなければいけないと感じる。

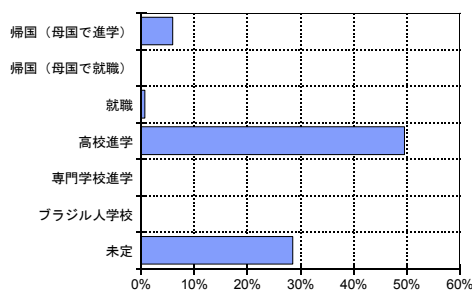
日本人の児童生徒にとっても、様々な国の子どもたちと生活し



外国人児童生徒と日本人児童の日本語力・教科力の比較

(岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室作成のテスト結果より)

中学校卒業後の進路希望



ていくことは、国際理解の第一歩であり、他者への思いやりの心を持ち、人の立場でものを考えられるようになることにつながるのである。国際理解とは、自己を知り、他を認めることである。自分の国、地域の自然や社会、学級や家庭を自分自身とのかかわりの中で、学び、知り、理解すること。また、他の地域や国に住む人々について知り、文化、習慣、風俗の違いを互いに認め合うこと。すなわち、相手の立場が理解できるということである。外国人児童生徒が、日本の文化・習慣に慣れることは、もちろん大切なことであるが、できる範囲でこちらからも相手の国の文化・習慣を理解し、お互いに歩み寄ることも必要であると思う。

外国人児童生徒にとって、日本語適応指導教室が、『心の居場所』になるとともに日本人児童生徒と同様の『授業で活躍できる力』を身に付けさせることが大切である。縁あって来日した外国人児童生徒が、日本に来てよかったと感じるような指導を日々、心掛けていく必要がある。

【岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の取り組み】

(理念)

- ① 外国人児童生徒が日本の学校に適応できるように指導する。そのことが、日本人児童生徒にも好影響を与える。
- ② 市内すべての小中学校に在籍している児童生徒に同じ教育をする。日本語を話せるからいいのではなく、授業についていけるようにする。
- ③ 地域でおきている外国人差別・偏見の是正を学校から広げていく。
- ④ 未就学・不登校児童生徒をつくらない。
- ⑤ 親とのコミュニケーションがとれるよう、また、帰国した際に言葉の壁にぶつからないよう、ブラジルの教育を取り入れている。

(日々の指導で配慮していること)

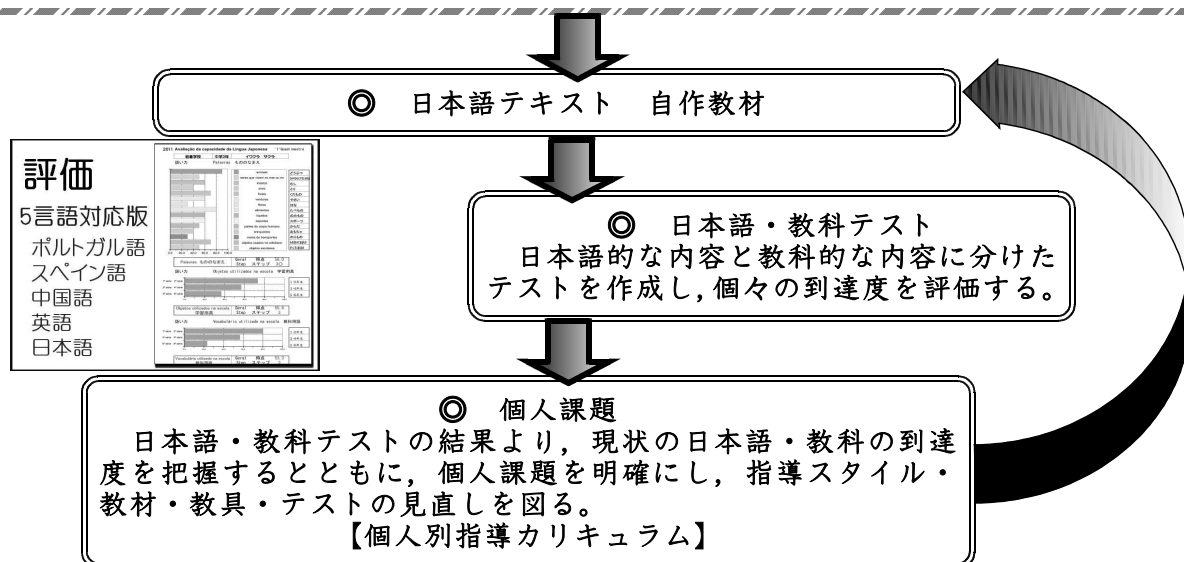
- ① 学校や日常生活に適応できるように日本語の指導をすること。
- ② 日本の文化や学校のきまり、社会のルールなどを指導すること。
- ③ ブラジル人には、ブラジルの教育やポルトガル語の指導をすること。
- ④ 学校から家庭への連絡・通信などを親に理解できるようにすること。

岩倉市の日本語・ポルトガル語適応指導教室の指導は、日本語指導とポルトガル語指導に大きく分かれる。そして、日本語指導は、学校生活適応指導（集中初期指導）と通常の日本語指導（原則一取り出し指導）に分かれる。

学校生活適応指導では、市内7校の小中学校に在籍する外国人児童生徒の中で、来日したばかりの児童生徒や、日本に住んでいるものの日本の学校に通った経験がない児童生徒に対して学校生活に慣れさせることを目的とし、原則1ヵ月を目安として学校のきまりや生活に必要な日本語を指導している。

日本語指導（取り出し指導）では、個々の日本語力と学力に合わせて日本語の指導・教科の指導・日本語能力試験の指導を行っている。「日本語・教科テスト」の結果によってそれぞれのステップを決め、そのステップに応じて取り出し時間を決めて指導している。

◎ 指導カリキュラム（指導項目・指導内容）



岩倉市日本語適応指導教室では、取り出し指導を基本にしているため、限られた指導時間の中で効果的な指導をするために、『岩倉市日本語指導方式』を取り入れている。

ステップ（日本語力・教科力）に応じた取り出し指導時間を設定し、1単位指導時間を4つのモジュールに分けて指導している。指導内容は、個々の日本語能力に応じたステップ指導内容と該当学年の指導内容を二層にして、モジュールの中に組み込んでいる。モジュールの配分は、日本語力・教科力テストの結果をもとにして日本語力別に分けたステップに応じて比率を決めている。

- ・ 指導モジュール数配分は、日本語力のステップに応じて比率を決める。
現在の日本語力レベルと現在の学年の学習内容、1指導時数・モジュール数配分比率は、概ね下記のようにする。

ステップに応じた指導内容と現在の学年学習内容の比率			学習内容（教科）の比率(小2の場合)		
ステップに応じた指導内容	:	現在の学年学習内容	日本語	:	算数 : 図音体生
【ステップ1】	10	:	0		
【ステップ2】	7	:	3		
【ステップ3】	5	:	5		
【ステップ4】	2	:	8		

2 授業のユニバーサルデザインと日本語適応指導において配慮する事項の関連

東小学校 授業のユニバーサルデザイン

日本語適応指導において配慮する事項

- ① 授業の構成を工夫する。
 - ☐ 教科書・ノート準備のタイミング・やり方を明示する
 - ☐ 導入の工夫
 - ☐ 授業の流れを示す
 - ☐ 授業の型を一定にする
 - ☐ 授業進行の工夫
- ② 教師の話工夫する。
 - ☐ 説明・指示の簡潔化
 - ☐ 1文1動詞（動作）で話す
 - ☐ 抽象語を少なく具体的に
 - ☐ 否定ではなく肯定的な表現で
 - ☐ 言葉のイメージ力を生かす
 - ☐ 語調に変化を
 - ☐ 称賛と肯定の言葉がけ
- ③ 板書と机間支援を工夫する。
 - ☐ きれいな黒板
 - ☐ 文字・行間・罫線・チョークの色
 - ☐ 黒板の分割法
 - ☐ 机間支援と一斉支援・個別的支援
- ④ 視覚情報や作業・動作を活用する。
 - ☐ イラストカード類の活用
 - ☐ 見て→読んで→書く
 - ☐ 作業動作で集中力を維持

- ① 指導の構成を工夫する。
 - ☐ 日本語テキストの活用
 - ☐ 指導の流れを示す
 - ☐ 1単位指導時間を4つのモジュールに分配
 - ☐ 個々の日本語力・教科力にあった指導内容
- ② 教師の話工夫する。
 - ☐ 説明・指示の簡潔化
 - ☐ VTR法の活用
 - ☐ 抽象語を少なく具体的に
 - ☐ 否定ではなく肯定的な表現で
 - ☐ 語いの連想
 - ☐ 場に応じた母語の使用
 - ☐ 称賛と肯定の言葉がけ
- ③ 板書と机間支援を工夫する。
 - ☐ きれいな黒板
 - ☐ プロジェクターの使用
 - ☐ 個別的支援
- ④ 視覚情報や作業・動作を活用する。
 - ☐ 五感を使った具体物の提示
 - ☐ 絵カード・言葉カードの使用
 - ☐ 見る・聞く→話す→読む→書く
 - ☐ あきさせない指導内容の工夫
 - ☐ ゲーム的な教材や教具の使用

3 児童の実態

本授業では、小学校2年生のブラジル人児童3名を対象に指導する。

児童A・児童Bは、昨年度9月に日本語が分からない状態で編入し、1ヵ月間、学校生活適応指導教室で日本語の集中初期指導を受けた。集中初期指導終了後は、取り出し指導を受けており、現在は週に2回、日本語適応指導教室に通っている。日本語指導には意欲的に参加し、学習内容の理解力もある。意味を理解して使える言葉はまだ少ないが、日常生活で自分の気持ちを相手に伝えることができる場面は徐々に増えてきている。しかし、語い量が少ないために、教室での授業内容理解に苦労している。また、授業で教師が説明している言葉を理解したり、出来事を詳細に説明したりすることが難しく、自分の考えをうまく日本語で伝えられずに涙を流すこともある。

児童Cは、日本生まれで日本の幼稚園に通っていた。日常会話に問題は見られないが、幼稚園・保育園に通った経験のある外国人児童より語いが少ない。また、1年生の時に3ヵ月ほど一時帰国をしており、その間、ブラジルで学校には通っていなかった。

3名とも家庭での会話はポルトガル語を使用していたり、ブラジルのテレビ番組を見ていたりするので、日本語に触れる時間が少ない。日本語の語い量が少ないので、日本語教室で多くのことばに触れさせていきたい。

外国人は日本語の長音・拗音・促音を苦手とする傾向があり、文章を書くときに顕著に表れる。本時に指導する3名も同様の傾向が見られるので、カタカナを書きながら長音・拗音・促音を練習させたい。

算数では、1年生の単元「大きいかず」で「10が○つと1が△つで□」という表現を学習している。このような表現は、問題を解くための助けになるはずであるが、複数の助詞が1文に詰まっていて、文法的な助詞の機能を理解していないと難しい。算数での表現は、児童A・Bは日本語の理解力が低いものの上記のような表現を覚えて解くことができた。児童Cは、まだこのような表現を習得できていない。このような算数の日本語表現は高学年になっても出てくるので、日本語の意味を理解できるように指導したい。「1000までのかず」では、比較の文型も出てくるので本時でも取り上げ、表現に慣れさせていきたい。

また、日常生活で使う千単位の数も知識として入れておきたい。

日本語には約2000語の擬態語・擬音語があり、世界で2番目の量であると言われており、覚えることは大変である。擬態語・擬音語には、感覚的なものも多く、その感覚を体得するためには言葉の習得同様、早い年齢の方が良いと考える。そこで、図工の授業で出てくる擬態語を含めたものの感触やものの様子を今回は指導したい。

本時に指導する3名の外国人児童に限ったことではないが、出来るだけ語いを増やし、日常生活で自分の思いを伝えられるように、そして、学級での授業に積極的に参加できるようにしていきたい。

4 6月の指導内容

- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| (1) 日本語 (ステップ指導内容) | 長音・拗音・促音・撥音のある言葉, 擬態語
日常生活で使う用語 |
| (2) 日本語 (現学年の指導内容) | 「は」「を」「へ」, かたかなで書く言葉, 漢字 |
| (3) 算数 (現学年・ステップ指導内容) | かくれた数はいくつ, 1000までの数 |
| (4) 図音体生(ステップ指導内容) | 小学校1・2年生レベルの教科用語・学習用具 |

5 日本語指導 中級 (ステップ3) 6月の指導計画

モジュール	指導時数①	指導時数②	指導時数③	指導時数④
	日本語	日本語	日本語	日本語
ア	長音・拗音・促音・撥音 長音の入った言葉	長音・拗音・促音・撥音 拗音の入った言葉	長音・拗音・促音・撥音 促音の入った言葉	長音・拗音・促音・撥音 撥音の入った言葉
イ	日本語 「は」「を」「へ」 「は」の使い方	日本語 「は」「を」「へ」 「を」の使い方	日本語 「は」「を」「へ」 「へ」の使い方	日本語 「は」「を」「へ」 まとめ
ウ	算数 かくれた数はいくつ へったのはいくつ	算数 かくれた数はいくつ ふえたのはいくつ	算数 かくれた数はいくつ はじめはいくつ	算数 かくれた数はいくつ 確認テスト
エ	図音体生 体育で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 体育で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 体育で使う用語や用具 書く練習	図音体生 体育で使う用語や用具 確認テスト

モジュール	指導時数⑤	指導時数⑥ (本時)	指導時数⑦	指導時数⑧
	日本語	日本語	日本語	日本語
ア	長音・拗音・促音・撥音 確認テスト	擬態語 ものの様子	擬態語 ものの様子	擬態語 人の気持ち
イ	日本語 かたかな かたかなで書くことば	日本語 かたかな 長音・拗音の入った言葉	日本語 かたかな 促音の入った言葉	日本語 かたかな かたかなの入った文
ウ	算数 1000までの数 1000までの数の言い方	算数 1000までの数 1000までの数と比較	算数 1000までの数 数の並び方と大小	算数 1000までの数 漢数字で書く
エ	図音体生 図工で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 図工で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 図工で使う用語や用具 書く練習・確認テスト	図音体生 音楽で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習

モジュール	指導時数⑨	指導時数⑩	指導時数⑪	指導時数⑫
	日本語	日本語	日本語	日本語
ア	日常生活で使う用具 言葉の提示・口頭練習	日常生活で使う用具 言葉の提示・口頭練習	日常生活で使う用具 書く練習	日常生活で使う用具 確認テスト
イ	日本語 かたかな まとめ・確認テスト	日本語 漢字 6月の漢字	日本語 漢字 6月の漢字	日本語 漢字 確認テスト
ウ	算数 1000までの数 たし算	算数 1000までの数 確認テスト	算数 1000までの数 ひき算	算数 1000までの数 確認テスト
エ	図音体生 生活科で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 生活科で使う用語や用具 言葉の提示・口頭練習	図音体生 生活科で使う用語や用具 口頭練習・書く練習	図音体生 生活科・音楽で使う用語や用具 確認テスト

(1) 本時の指導項目 【指導時数⑥ (4モジュール)】

- | | | | |
|------------|-------------|--------------|-------------|
| ア 擬態語 | 【モジュール 1/3】 | イ かたかな | 【モジュール 2/5】 |
| ウ 1000までの数 | 【モジュール 2/4】 | エ 図工で使う用語や用具 | 【モジュール 2/3】 |

6 日本語の習得状況及び課題 (H24.6現在)

	A (小2)	B(小2)	C(小2)
国籍	ブラジル	ブラジル	ブラジル
来日時期	日本生まれ(昨年9月に編入)	4才ごろ (昨年9月に編入)	日本生まれ
習得状況	ステップ3	ステップ3	ステップ3
共通課題	語い…学習用語・学習用具の語いが少ない。 表現…擬音語・擬態語の量が少ない。 読解…読解のための語い、表現がまだ少ない。		
個人課題	話す…意思疎通するために必要な日本語は習得している。様々な状況を伝える日本語は乏しい。 表現…間違った擬音語の使い方をする。 動詞や形容詞の活用を間違える。 聞く…全体への指示では理解出来ないことがあるが、個別の支援があれば理解出来る。	話す…生活に必要な最低限の日本語は習得している。知っている日本語を使って生活している。 表現…動詞や形容詞の活用を間違える。 聞く…クラス全体への指示ですべて理解することは難しい。かみ碎いた説明は理解できる。	算数…繰り上がり、繰り下がり、文章題が苦手。 算数で出てくる用語や表現が苦手 文字…書くことに時間がかかる。

※ ~~~~~線は、本時に指導する課題

7 本時の指導

(1) 目 標

- ア 擬態語を知り、その擬態語の使い方がわかる。(A, 表現)
 擬態語を知り、日常生活での豊かな表現力を身に付ける。(B・C, 表現)
 イ かたかなで表記する言葉を知り、正しく長音・拗音を表記できる。(A・B, 語い・文字)
 正しく長音・拗音を表記できる。(C, 語い・文字)
 ウ 比較の表現を使った文の意味が分かる。(A・B・C, 教科用語・文法)
 エ 図工で使う用語や用具を覚える。(A・B・C, 表現・教科用語)

(2) 用意するもの 教師— 提示用資料、ワークシート、プロジェクター、絵カード、言葉カード
 綿、缶、紙やすり、たわし、ゼリー状のおもちゃ、箱

(3) 指導語い／表現

- ア 擬態語 (ものの様子) — つるつる ざらざら ふわふわ ちくちく ねばねば べたべた など
 イ かたかな————— コーヒー ポール ギター スカート パトカー シャワー など
 ウ 1000までの数 ——— 1000までの数 2000 3000 いちばん あいだ より など
 AはBより○大きい (小さい), AとBのあいだのかず など
 エ 図工 (用語・用具) — わた 毛糸 ペットボトル わりばし ストロー ふうせん など

(4) 指導内容

	児 童 の 活 動	教 師 の 支 援
教科 図工 (8分)	1 図工で使う用語や用具の名前を覚える。(A・B・C) (1) 絵カードの名前を言う。 ・ 全員で言う。 ・ 一人ずつ言う。 (2) 絵カードと言葉カードをホワイトボードで組み合わせる。 (3) 絵付きワークシートで各自確かめる。 ・ 絵と言葉を線で結ぶ。 	○ わかりやすいものから提示していく。 ○ 聞き慣れていない言葉は、繰返し耳に入れる。
日本語 擬態語 (12分)	2 ものの様子の擬態語を知る。(A・B・C) (1) ボックスから出てくる物の名前を言う。 (2) 触ってみてどんな感じがするのか発言する。 ・ やわらかい, ふわふわ, フォフィーニョ (ふわふわ) ・ いたい, エスピーニョ (とげ) (3) プロジェクターで映し出された絵を見て適切な擬態語を選ぶ。	○ 児童のイメージや感覚も大切にすること。 ○ 一人一人から感触を聞く。 ○ 母語が出てきた場合も大切にすること。 ○ 多種・多様な語いや表現にできるだけ多くふれるように

	(4) 絵カードと擬態語を組み合わせる。 ・ びかびか ・ ぼろぼろ (5) ワークシートに取り組む。 ・ 適当な擬態語を2択から選び○をつける。	配慮する。 ○ 絵を入れてわかりやすくしたワークシートも用意する。
教科 算数 (10分)	3 「1000までの数」で使う表現を知る。(A・B・C) (1) 1000までの数の復習をする。 ・ プロジェクターで映された数字を読む口頭練習をする。 (2) 比較の表現を復習し、口頭練習をする。 ・ Aより大きい(小さい)か? ・ Bより○大きいか? ・ ○より大きくて、△より小さいか? ・ ○と△のあいだのか? ・ あと1で○になるか? ・ ○より1小さいか? ・ ○より1大きいか? (3) ワークシートに取り組む。 ・ 比較の表現を読んで当てはまる答えを黒く塗る。	○ 百(ひゃく・びゃく)の音に気を付けるよう声をかける。 ○ 千単位の数字も日常で使うので、取り入れる。 ○ あいだという言葉の意味を説明する。 ○ プロジェクターでワークシートを映して、それを見ながらやり方を説明する。 ○ 児童の実態に応じて解く問題の量を調整する。
日本 語 かた かな (15分)	4 かたかなで言葉を書く。(A・B・C) (1) かたかなを使う言葉の復習をする。 (2) かたかなで書く長音・拗音の入った言葉を知る。 ・ 映し出された絵の名前を答える。 ・ 正しく表記された言葉を選ぶ。 (3) 提示された絵の名前を、ばらばらにしてある文字カードを協力して組み合わせて作る。 (4) ワークシートに書き込む。 ・ 本時学習したかたかなの復習をする。	○ 復習するために日本語テキストをプロジェクターで映す。 ○ 選択肢から解答を選べるようにする。 ○ 一緒に手を叩きながら長音の拍を確かめる。 ○ 長音・拗音の書く位置に注意するよう声をかける。 ○ マスの入ったワークシートを用意する。 ○ 横書きと縦書きの違いに気をつけるよう促す。 ○ レベルに応じたプリントを用意する。



(5) 評価

- ア 本時で学習した擬態語と使う場面の絵を一致させることができたか。(A, 表現)
- イ 本時で学習した擬態語を使った練習問題を解くことができたか。(B・C, 表現)
- イ 言葉を覚え、長音を意識しながらワークシートに適切に書き込むことができたか。(A・B, 語い・文字)
- ウ ヒントを参考に長音や拗音を正しく表記できたか。(C, 語い・文字)
- ウ 比較の表現を理解し、正しい答えを選ぶことができたか。(A・B・C, 教科用語・文法)
- エ 図工で使う用語や用具の名前を覚えることができたか。(A・B・C, 教科用語)

◎ 視察・研修・講座

井上剛先生（前 岩倉市教育長）を迎えて ～ 一部抜粋 ～

平成24年4月24日(火)

実は、私が初めてブラジルの子どもと出会ったのが、平成6、7年のときであります。当時、1,000人くらいいる学校で、その中にたった1人だけブラジルの子どもがいました。どれくらいの成績をとっているのかなと言うことがまず気になったんです。彼の成績を見てみると、ほとんどの教科が「1」です。中学校、5段階評価の「1」。それで、そのとき、僕は間違った見方をしたんですね。どんな見方をしたかと言うと、ああ、日本人はやっぱり優秀だなあと。ブラジルの子はあんまりできないなど、そういうイメージで、そのとき見てしまいました。そこまで、僕の思考は止まったわけです。当時、荒れていた学校で、木の棒を持って廊下を数人の生徒が歩き回る時代なんです。荒れた状態だから、自分の目は、当然、そっちのほうをどうするのか、と言うことで、たった1人のブラジルの子から目がそれていってしまった。ですから、今思うと、非常に気の毒なことをしちゃったなあと。2年間いたんですけども、彼が母国のブラジルへ帰った。実は、向こうの高等学校を受験したんですが、そしたら、最も難しい学校に入ったんです。と言うことは、日本では「1」しかとれなかった、しかし、それは、能力がなくて「1」ではなくて、日本ではあったらかしにしていたから「1」だった。本当は能力はあるもんですから、その子の能力をもっと伸ばしてあげると言う努力を私たちがしていれば、彼は、日本でも「3」とか「4」と言う成績を充分とれただろうと言うことで、その中学校に2年間いた最後のほうで、気づいたことは、「しまった、今の日本の外国籍の子どもに対する指導ではいけないな」と言うところだったんです。それが、平成6年7年の頃でありますから、今から17、8年近く前のことです。その頃、外国籍の子どもと言うのも少なかったと思うのですが、その頃に自分も岩倉に赴任するようになりました。



今年、東小学校の卒業式に出ました。市内小学校5つありますけども、毎年、自分は、そのうちのひとつしか行けませんから、5年に1回しか行けなく、たまたま今年が東小学校の順番になっていたのので、東小学校の卒業式に出ました。卒業式では、保護者席の一番先頭に明らかにブラジル人と言う夫婦が座ってみえました。子どもが入場し始めると、席を立ててビデオカメラをまわして、わが子を映すために席を立てていかれました。その姿を見ていて、やっぱりどこの国の人も自分の子どもを想う気持ちと言うのは変わらないな、そういう思いをまずひとついたしました。話は数年前にさかのぼるのですが、実はここ東小学校に、4年生くらいだと思うんですが、転入してきた子どもがいました。これもブラジルの元気のいい男の子でした。サッカーの得意な子でありました。実は、彼が成長するにつれて筋委縮症といって体が少しずつ少しずつ動かなくなっていってしまったのです。そして、小学校6年生のときには、実は、この岩倉団地の4階に住んでいたのですが、自分で階段を上り下りすることすら出来なくなってしまいました。その子をお母さんが背負って4階から1階まで下ろし、車いすでこの東小学校まで毎日運んでみえました。その姿と言うのは、今虐待なんかが非常に多い日本人が見て、見習わなければいけない、本当にすごい、ブラジルの方の子どもを想う親心だと思います。その後、彼はそういう病状ですので、南部中学校には行けませんので、小牧養護学校へ進学をしていきました。養護学校ですので、肢体不自由の子たちが集まって、そういう仲間と一緒にその後生活をして、今、高校卒業くらいかな、まあ、いろんな子どもがおります。そして、そういう子どもに対する親の気持ち、

そういったものも、本当に、我々日本人が忘れてしまっているような、親心と言うものを教えてくれたのも、ブラジルの人たちじゃないかなと言うふうに、僕は思っております。

日本人として、ブラジルの方の親の気持ちをぜひ察してほしいということです。それから、もうひとつは、ブラジルから来ている子どもたちの気持ちが分かる教員であってほしいなあと言うことを思います。今、日本へ来て、キャッキヤ、キャッキヤと子どもたちが陽気に騒いでいる、そういう姿を見て、ああ元気にやっているな、ごく普通だなと言うふうに、ついつい日本人は思ってしまっても、実は彼らの心の奥底にあるのは、決してそんなはしゃぎたい気持ちではないと思うんですね。要は、彼らは、親の都合によって、無理無理日本に来ているだけなのです。親の生活があるから日本にきているだけなんです。その親の都合で、渋々日本に来ているのが、子どもだと思えます。だから、彼らは、本心は、母国ブラジルで多くの友だちと、一緒に遊びたいはずなんです。そういうのを振り切ってしまうのか、親に連れられて日本に来ているだけです。本当は彼らはブラジルへ帰りたい、そういう子たちです。そういう子に対して、日本の学校は、もっともっと光を当ててやるべきではないかなと言うことです。そういう光を当てられるのは、皆さんたちだと思うんです。ですから、子どもの気持ちと言うものを、ぜひ、察して頂いてそういうブラジルの子どもたちに、もっともっと温かく接してやってほしい。そして、心の奥底にあるものを、はきださせるようなそういう指導をしてやってほしいなと言うことを思います。その先頭に立って頂くのが皆さんたちです。



今、ここにいない一般の教員は何を考えているかと言うと、決してそんなことを考えてない、自分のクラスに外国籍の子どもがいないといいなあと思っている。楽です。日本人だけだと手がからない。同じように、日本人としての手をかけてやればいいんです。余分な手をかけなくてもいいんです。そういうのが、今の一般の教員の気持ちではないかなと言うことを思っています。ですから、あなたたちここにいらっしゃる皆さん方の姿勢が、一般の先生たちの心を揺さぶっていく、そういう接し方、指導の仕方、そういうものを期待をしています。

そして、もうひとつ、地域の人たちです。地域の人たちも、何を考えているかと言うと、決して、外国籍の人たちがこの岩倉の自分の地区に住んでほしいとは思っていない。なぜかといえば、全く生活習慣が違うからです。そして、これは、偏見なんです。犯罪が増えると言う風に地域の人たちは思い込んでいる。ですから、犯罪が増えるとか、生活習慣が違って、夜どんちゃん騒ぎをすると、そんなことされたら、いろんな今までの地域の仕組みが崩れてしまうんじゃないか。だから、なるべく、外国籍の人たちは、入り込んでほしくないと言うのが、地域の気持ちだと思うんです。そういうものを全て払拭していかないといけない、その源になっていくのが学校だと思うんです。だから、学校が全ての源になっていくと言うことを自覚してほしいと言うか、それくらいのつもりでいてほしいと言うことであります。今後、いろんなことを皆さん方に要求すると言うのは、酷な話ですが、今はうまくいっているのが岩倉団地の自治会ですね。団地の自治会は、本当に、地区で外国籍の人たちを支援してこうと、指導してこうと、こういうことでやっているわけです。ですから、非常にいい状態なわけなんです。

学校なんかでピアスしていくのは、ブラジルだったら当たり前なんですよね？日本人だと、ピアスいっぱいつけて鼻にまでピアスつけていると、日本人だったら、なんだこれはと、まさに不良ですね。ですが、文化の違いで、ブラジルに行けば、それは、ごく当たり前のおしゃれと言うか、アクセサリーみたいなものです。そこでも、もの

すごく違う。そういう、大きな違いのある民族同士が、共に生きていけないといけません。非常に難しい問題がある。

僕が教育長になったばかりの、今から8年も前の話ですけども、そんなこと、いきなりブラジルの人に、日本の習慣に従えと言ったって、無理だから、少しずつ日本に慣れさせていけばいいじゃないかと言うことを、村瀬先生に話したんです。そしたら、とんでもない勢いで叱られました。そんな甘っちょろいこと言ってたらだめです。日本へ来たら、日本人になりきってもらわなきゃいけないと。日本の習慣に従うように指導していきますと、村瀬先生がおっしゃいました。

岩倉市の小学校の指導の原点が、新しく入ってきた子どもは、常に日本の生活習慣に慣れる。ここに、岩倉市の指導の原点があると言うことは、ぜひ知っておいて頂きたいと思います。徐々にと言っていたら、それこそだめですね。一気に日本に慣れてもらわなきゃいけない。

そういうことで、岩倉の日本語教育が今までどういう軌跡をとってきたのだろうかと言うことで話をしますけれども、岩倉の日本語教育の中で、絶対に忘れちゃいけない人物が二人います。それが、村瀬先生とこの4月、母国へ帰られましたミズカミ先生。この二人の存在と言うのが、岩倉の日本語教育を支えてきた。あるいは、リードしてきた二人だと言うふうに、私は思っております。

まず最初に、村瀬先生が敷いてくれた路線と言うか、レールと言うのは、いくつかあるんですけども、僕は解明できない部分がひとつあります。それは、ネットワークの広さですね。どこでどうやって情報を仕入れてくるのか知らないけども、ものすごいネットワークを持っているわけです。そして、様々な情報を収集している。そういう能力と言うのは、多分、皆様方では無理だろうと思うんですね。中には、夜の町を歩いていないと手に入らないような情報等も出てくる。そういうネットワークをこの十年ちょっとの間に彼は、築き上げている、そういうひとつの路線を引いていると言うことですね。

それから、岩倉の日本語の指導の中で、いわゆる、日常会話で使う日常用語と、それから、教材用語と言う区別をきちっとして、その両方を成し遂げようとしたのが、村瀬先生ですね。要は、日常会話として使う言葉と言うのが、限られているんですね。授業中に出てくる言葉と言うのは、日常絶対使わない言葉が出てくるわけですね。僕は、いろんな場で例に出しているんですけども、ビーカーとか、フラスコとかいう言葉は、日常生活では、絶対出てきませんね。ビーカーでお茶を沸かすなんてありませんよね。フラスコで今日は1杯やりましょう、そんなこと絶対ありませんね。そういった日常用語と、学校で使う用語、そういったものをきちんと整理したのは村瀬先生。

もうひとつ、これは、絶対真似ができない。いわゆる補助教材。これの素晴らしさと言うのは、ちょっと表現できないですけども、莫大な量の補助教材と言うものがあるんですね。しかも、それのほとんどが手作り。自分たちで作りだした補助教材、そ

ういったものがある。

それから、子どもたちの将来を見据えた指導をしておってくれたのが、村瀬先生。ひょっとして、この子たちは、将来、日本に永住するんじゃないか。そのためには、日本語能力試験を受けさせる必要があると言うようなことで、親さんには金銭的な負担になるんだけども、日本語能力試験をどんどん受けさせる。それによって、将来就職しやすくすると言うようなルートを築いていっている。

本当に、数えあげれば、ものすごくたくさんのことを、村瀬先生は、この十何年間の間にやってきている。この岩倉の日本語教室を



支えてくれた土台柱であります。

その村瀬先生を支えたのが、ミズカミさんであると思います。今はある程度出来上がっているのですが、いいんですが、十年前なんかですと、まだ未知の世界、その未知の世界で支えてくれたミズカミさん。何を支えたかと言うと、ミズカミさんは、学校で勤務しているだけが勤務じゃなかったんです。実は家へ帰ってからも24時間勤務。ブラジルの方々が日本語が通じないがために、いろいろ分からないことがある、あるいは、困ったことがある、そうすると、全てミズカミさんのところへ相談にいった、そこで解決してもらった。そういう生活をずっとしていた。それが、まさに、日本人とブラジル人の人たちを結びつける大事な架け橋としての役割をしてもらっていた。

この二人は、まさに日本語教室ができて以来の方々であって、基礎をつくって頂いた、流れをつくって頂いた、貴重な存在で、本当に私も感謝しているところでございます。

最後に、これからの日本の教育と言うのは、どういうところに気を付けていくべきなのか、ちょっといくつか挙げます。

まず、皆さん方に特に気を付けてほしいことは、経済の動向とか政治の動向とか外国からの労働者等の入ってくることと、非常に大きな結びつき、接点があるということです。今後、景気の動向によっては、外国籍の子どもたちがいなくなってしまうような時代になるかもしれない。ですから、政治の動き、そういったものも気を付けてほしいと思います。多分、ブラジルは、これから景気が良くなるんだろうと思うんですね。ワールドカップやオリンピックがブラジルで行われる。日本でもそうであったように、東京オリンピックをやったときに、ものすごい高速道路ができ、新幹線ができ、経済復興が進んでいったんです。

ブラジルもオリンピックをやれば、おそらく経済復興が盛んになってきます。母国が景気がよくなれば、今いるブラジルの人たちは帰っていく可能性がある。ですから、そのへんのところを、しっかりと皆さんたちも気を付けてみている必要性がまずあるんじゃないかと言うことがまずひとつ目。

それから、二つ目として、この先ですね、日本生まれ、日本育ちのブラジル人が出てくると思います。日本生まれで、日本育ちのブラジルの子たちにどう指導すべきか、何を指導すべきかと言うことを、ある種の方向性を持っていないと失敗することがある。極論を言えば、そういう子たちにこそポルトガル語を指導しなければならなくなる。ブラジル人でありながら、母国語を知らない。母国の習慣を知らない。そういう子にむしろブラジルのことを教えなければならなくなる。そういう時代だって出てくる。

これは、皆さんたちの仕事ではないかもしれませんが、岩倉団地のことも見つめなければならぬ。子どもの半数近くは団地に居住している。昔の住宅公団、今は「UR」と言っていますが、ここを管理しているところは、今後どういう姿勢に出てくるか？築40年くらい経っていますが、鉄筋コンクリートの建物の対応年数は、ざっと60年と言われている。とすると、あと10数年でこれを取り壊すかどうかと言うことが問題になってくる。これが、もし取り壊され、別の住宅となった時、今住んでいるブラジルの人たちが、今度はどこで居を構えるのか。そういった動向を見定めておかないと大変な事態になる可能性もある。

それから、この東小学校に関して言うと、ひょっとすると外国籍の子が50%を超える学年が出てくる可能性がないとは言えない。ですから、そうなった時にどういう指導をしていったらいいのか？僕が心配することは、東小の教育が、みんなの子に分かるようにと言うことで、レベルを抑えた指導をしてしまうと、学力低下に繋がっていく。ですから、ある程度レベルは保ったなかで、ブラジルの子は余分に勉強しなければならない。語学の勉強もしなければならないし、教科の学習もありますので、ものすごく負担がかかる。だから、普通の授業だけではついていくことができない。そういう場合には、ブラジルの子や日本の遅れた子を含んでも良いですが、そういう子たちだけを集めた補充的なことをしていく必要性もでてくるのではないかと言うことを思っております。

外国籍の子がどんどん増えていく、増えていってしまったらどういう風に対応していくのか、今は一例を挙げただけですが、いろんな対応があり、今から考えておく必要があるのではないかと思います。

それから、折角、すごい文化を持った異なる民族、日本人でない民族の方が、この学校に入るわけですね。そういう異文化と言うものを、もっともっと日本の子どもたちに知らしめる、そういう学校運営があるのではないかなと言うことを思います。

なぜブラジルの子たちが元気がいいのか、その源になっているのは何か、その根源を探っていくと、意外と文化の違いと言うものが出てくるかもしれない。この学校の先生方と言うのは、折角こういう学校に



いるので、異文化を受け入れて、それを日本人に知ってもらう。そういう国際理解と言うものを、もっともっとしていく必要があるのではないかと思います。そういったようなことが、これからここが抱える課題ではないかなと思います。

以上で、私の話を終わりますが、自分がこの8年の間、葛藤していたことを申し上げますと、実は岩倉の日本語教室と言うのは、日本で一番だと。どの市町村にも負けないと。ところが、それをなかなか口に出して言えない。

例えば、新聞社なり、マスコミなりにそのことを言うと、もっともっとブラジルの人たちが、ここへ集まってくる。そうすると、まことに失礼な言い方になるのですが、市の財政は苦しくなる。中には裕福な方もございます。しかし、どちらかと言うと、所得的に言えば、少ない方が多いです。そうすると市の支出は増えるんです。ですから、市の財政は保つことができない。だから、日本一の指導をしていると言うことが公に言えない。市議員さんには知ってもらわなければいけないので、議会では言っています。ですが、マスコミに対して、そういうことはなかなか言えなかった。そういう、行政職としての自分の苦しさ、そういったものが現実あったということです。それは、ここで一生懸命やってもらっている人に対して、本当に申し訳ないという気持ちでございました。

岐阜聖徳大学 視察

◎ 日時 平成24年 6月 6日(水) 8:45~12:00

◎ 視察目的

岩倉市の学校での外国籍児童生徒への取り組みについて視察し、学校における外国籍児童生徒への支援内容と方法について学び、今後の取り組みの参考にする。



◎ 視察者

Craig Alan Volker 岐阜聖徳学園大学 外国語学部教授（言語学博士）

西 薫

岐阜聖徳学園大学大学院生・岐阜県羽島市立中央小学校教諭

◎ 日程

- ・ 8:45~ 9:35 ポルトガル語指導及び日本語指導参観（1限）
- ・ 9:45~ 10:35 南部中学校授業参観，学校長との懇談（2限）
- ・ 10:45~ 12:00 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室の概要説明
意見交換

夏期 研修会

◎ 目的

教師経験が少ない日本語担当者が多い中，教材開発・指導法などを相談できる場を設定し，各教科をどのような目線で指導していったらよいかなど，今後の指針となる話を経験豊富な先生方を講師に迎えて力量向上のための研修会を行う。

◎ 研修の感想

○ 7月24日(火) 曾野小学校 社会 高橋指導主事

- ・ まず「教科書を読めるようにする」ということの大切さを改めて実感した。
- ・ 歴史マンガが有効とのことだったので活用したい。
- ・ 詰め込みになってしまいがちだが，時代の特徴をつかんで流れを教える大切さを痛感した。

○ 7月31日(火) 曾野小学校 理科 社本先生

- ・ ワークブックの基本のページができることを目標にという言葉に安心した。
- ・ 教科担任の先生と連携を深めたい。ワークシートなども活用させてもらえるといい。

○ 8月 7日(火) 岩倉南小学校 国語 有尾先生

- ・ 問題の解き方を教えながらイメージをふくらませるアプローチを教えていただけて良かった。
- ・ 「書く力」のつけ方について教えていただけてよかった。「腹が立ったこと，いやだったこと」から書かせるといい，というのが印象的だった。
- ・ 国語の学習は積み重ねではなく，らせん状のカリキュラムになっていることを伺って理解が深まった。

○ 8月21日(火) 岩倉中学校 算数・数学 木村先生

- ・ 子どもがよく知っているもの，身近なものから入ることで，興味をもたせ引きつけることにつながるというのが印象的だった。
- ・ 数学でゲーム的に取り組めるものがあることを知り方法をもっと勉強したいと思った。



犬山市立楽田小学校 学校視察

◎ 日時 平成24年 11月30日(金) 10:30～12:30

◎ 会場 岩倉市立岩倉東小学校

◎ 視察者 犬山市立楽田小学校 日本語担当 2名

◎ 日程

① 10:50～11:35

- ・ 日本語教室 指導参観

② 11:45～12:30

- ・ 岩倉東小学校（センター校）校長 挨拶・懇談
- ・ 岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室 主任 概要・説明，質疑意見交換



外国人児童生徒の受入れ・サポート体制 ～ 教育委員会・学校の連携 ～
大阪府豊中市 豊中市教育センター（豊中市教育委員会人権教育室主催）

◎ 日時 平成24年10月16日(火) 14:30～16:30

◎ 講座参加者（27名）

◎ 講座内容

- 1 岩倉市の取り組み 2 日本語指導
- 3 マニュアルより
- 4 外国人児童・生徒のための受入れガイダンス
- ※ 実際の指導で配慮すべき事項・心構え
- ※ 日本語指導法

【参加者アンケートより ～一部抜粋】



- 異文化の子どもたちとにかく興味をもたせるか、いろいろくふうされていることがわかりました。全市的な協力がなければならないこともよくわかりました。異国の子どもたちの心情や文化もまた理解してあげないといけないなと思いました。
- 日本語指導するにおいて行政や学校の諸先生方、地域の方々、いろいろな方々の協力なしでは難しいと感じました。先生の話はとても楽しく、教材等、今後の指導に役立てたいと思います。ありがとうございました。
- 公的な制度を作り上げてこられた実践がすごいと思いました。生徒の教育に関わるものたちが連携をとる重要性に共感しました。啓発されたことが多数ありました。詳しい資料もありがたかったです。遠方からお越しいただいたことに感謝いたします。
- 自分は学校関係者ではないため、機関や組織としての関わり方についてはよくわからないが、実際に児童生徒と接している中で、目を開かされることが多々あった。具体的な例、問題点についての話が非常に参考になった。特に興味をもたせ集中させるための資料をどうするかについては自身がもっと努力をし、情報を収集し、実践していかなければならないと痛感した。
- 子どもの進学は難しいなと思いました。一人一人に寄り添って支援されておられることで救われている方が多くいると感じました。教材の多彩さにも驚きました。
- 文化の違いによる学習適応力の違いには、十分な配慮が必要なのことがわかりました。「南米の子は・・・」「パキスタンの子は・・・」という語り口、実践に裏打ちされた力強さを感じました。

日本語適応指導授業研究会

名古屋市立大高南小学校

◎ 日時 平成25年2月14日(木) 10:30～16:30

◎ 参加者 日本語担当者、名古屋市語学相談員

◎ 内容 日本語適応指導への指導・助言

- 先生からいただいた資料を使って早速実践しました。今回のご指導で一番心に残ったことは「愛」とは何かということです。これからも「愛」の心を持ちながら外国人児童生徒に接していきたいと思います。今後、スキルアップのために頑張りたいと思います。機会がありましたら、また、村瀬先生のご指導を受けたいと思いますのでよろしくお願い致します。



- 貴重なお話、写真、どれもすばらしく、印象深いものでした。特に、「日本一愛ある日本語適応指導教室」という先生の言葉が心に残っています。見捨てないこと、将来を見据えて背中を押すこと。

私が日本語指導を担当するようになって、まもなく1年になります。担当してみて初めて気付かされたことがとてもたくさんあります。日本語指導がどうあるべきか、ぼんやり思っていたことが、先生にお会いして鮮明に見えてきたように思います。名古屋市という大きな自治体で日本語指導を行うハード面での問題もたくさんありますが、まずは、自分にできるところから一つ一つ積み上げていきたいと思っています。

◎ 問い合わせ 平成24年度分 リスト一覧

○ NHK 名古屋放送局 ディレクター	岩倉市日本語適応指導教室 取り組み取材
○ 岐阜聖徳大学 教授・大学院生	視察依頼
○ 大阪府豊中市教育委員会	「外国人児童生徒の受入・サポート体制」講師依頼
○ 熊本県立大学 大学生	「日本人児童と外国人児童が共存できる母語教室」アンケート依頼
○ 愛知県尾張教育事務所語学相談員	学校生活適応指導教室について
○ 各務原市教育委員会	カリキュラムについて
○ 岐阜県各務原市立緑陽中学校 名古屋市立船方小学校 新城市立新城小学校 蒲郡市立塩津中学校 知多市立八幡中学校 小牧市立大城小学校 江南市立宮田中学校 江南市国際交流協会 尾張教育事務所 外国人児童生徒語学相談員 立命館大学 学生	東浦町立東浦中学校 名古屋市立東海小学校 蒲郡市立大塚小学校 半田市立横川小学校 小牧市立米野小学校 江南市立藤里小学校 西尾市早期適応指導教室 名古屋国際センター 愛知教育大学 大学院生
	岩倉市日本語適応指導教室 公開指導 南部中学校 参観希望 計 36名
○ 愛知県蟹江町教育委員会	帰国手続きについて

◎ 日本語・教科テストの改定（新指導要領に合わせて）

※ 改定に合わせて、評価方法や集計一覧表の見直しを図る。

○ 指導区分・ステップ(個々の日本語習熟度の段階)の見直し

- ・ ステップ0(S0) —— 学校生活適応指導
(耳に入れる) —— 集中指導
- ・ ステップ1(S1) —— 初期 (聞く)
- ・ ステップ2(S2) —— 初級 (話す)
- ・ ステップ3(S3) —— 中級 (読む)
- ・ ステップ4(S4) —— 上級 (書く)

※ ステップ2～4(S2-①～S4)
—— 日本語能力試験指導

小4				日本語(国語)		記入	記録	確認
3学期	項目	3学期	学習内容	実施	得点	到達度		
1月	日本語(国語)	小4	じゅく語の成り立ち	2	2	△		
			小計	1	2			
2月	日本語(国語)	小4	動詞の働き	2	3	○		
2月	日本語(国語)	小4	動詞の種類	2	3	○		
2月	日本語(国語)	小4	ことわざ	2	3	×		
			小計	3	6			
3月	日本語(国語)	小4	動詞の形の変化	2	★	×		
			小計	1	0			
3学期	日本語(国語)	小4	縦断・横断的指導内容 項目1		★	×		
3学期	日本語(国語)	小4	縦断・横断的指導内容 項目2			×		
3学期	日本語(国語)	小4	縦断・横断的指導内容 項目3			×		
3学期	日本語(国語)	小4	縦断・横断的指導内容 項目4			×		
3学期	日本語(国語)	小4	縦断・横断的指導内容 項目5			×		
			小計	0	0			
			3学期合計	5	8.0			
3学期	日本語(国語)	小4	3学期 テスト入力用00点換算		92	×		
1年間			小4 平均		402			
1・2学期					44.3			
1学期					43.6			

○ 学年・教科・月別 指導教材・画像ファイルの整理

○ ステップ別 指導教材・画像ファイルの整理

○ 日本語・教科テストの整備

- ・ 漢字テスト, 教科用語・学習用具テスト, 語いテスト,
国語(日本語)テスト, 算数(数学)テスト, 日本語能力テスト

◎ 指導カリキュラム（指導項目・指導内容）

教育の目的，教育内容を超えて，教授活動やそれに対する教師の構えのようなものにまで拡大して，教育にアプローチする姿勢そのものまでもカリキュラムとして捉えなおす

◎ 日本語テキスト 指導教材

※ 評価の姿勢を含んだ類型（入出力モデル）
具体的に観察できる教育目標を設定しておいて，それに対応する教材，教具を開発，それを【指導＝学習】の過程で活用

にぎる おと

が つくと ことが かわります。

かき → かぎ てんき → でんき

かし → かじ さる → ざる

かし → かじ さる → ざる

かし → かじ さる → ざる

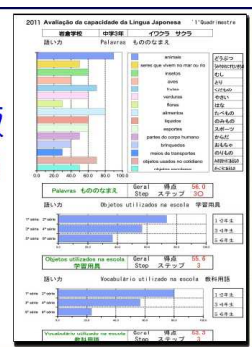
◎ 日本語・教科テスト

【指導＝学習】の結果を日本語的な内容と教科的な内容に分けたテストを作成し，個々の到達度を評価する。

評価

5言語対応版

ポルトガル語
スペイン語
中国語
英語
日本語



◎ 個人課題

日本語・教科テストの結果より，現状の日本語・教科の到達度を把握するとともに，個人課題を明確にし，指導スタイル・教材・教具・テストの見直しを図る。

【個人別指導カリキュラム】

【 昨年度に引き続き取り組んできた事項 】

- ① 指導カリキュラム(指導項目・指導内容)の見直し
- ② 日本語・教科テキスト，テスト・評価方法の改定
- ③ 保護者への発信

全体会

教材開発部会

テキスト
教材
テスト作成

指導法研究部会

指導項目
指導内容の作成

情報発信部会

保護者向け情報提供
ボイスボックス
ホームページ

◎ 指導ユニット・モジュール

● 岩倉日本語指導方式

年間指導ユニット 配当計画 ステップ・学年・月別

		第3学年(高校3年生)			
リサイクル(学期ごとにステップの見直し)		ステップ(S1)	ステップ(S2)	ステップ(S3)	ステップ(S4)
年間～3リサイクル					
1学期	4月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	5月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	6月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	7月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
評価 → ステップの見直し					
2学期	9月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	10月(4回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	11月(4回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	12月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
評価 → ステップの見直し					
3学期	1月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	2月(4回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)
	3月(3回)	英語Ⅰ(小沢裕子)	英語Ⅱ(小沢裕子)	英語Ⅲ(小沢裕子)	英語Ⅳ(小沢裕子)

・ 1指導ユニットの指導モジュール数配分は、日本語のステップに応じて比率を決める。
 現在の日本語カレベルと現在の学年学習内容、1指導ユニット・モジュール数配分比率は、概ね下記のようになる。

	ステップ	現在の学年学習内容	『指導指導ユニット・モジュール数配分例』
[S1]	1	0	19 : 0 (39モジュールの場合)
[S2]	7	3	18 : 8 (27モジュールの場合)
[S3]	5	5	9 : 9 (18モジュールの場合)
[S4]	2	8	2 : 7 (9モジュールの場合)

◎ 教材

- ・ 新規作成・編集, 教材作成用画像の整理

◎ 翻訳文書 新規作成，修正（主に中国語版を追加）

◎ マニュアルの改定 第6版

- ・ 管理職管理職向け お問い合わせ・確認事項
- ・ 教務主任教務主任向け 確認事項
- ・ 養護教諭養護教諭向け 確認事項
- ・ 学級担任 Q&A ハンドブック
- ・ 岩倉市日本語適応指導教室マニュアル
担当者向け

岩倉市日本語・ポルトガル語適応指導教室

校長先生・教頭先生へのお願い・確認事項 第6版

目次

日本語応指導教室 概要	P.1
日本語応指導教室の理念	P.3
日本語応指導教室の特色	P.3
岩倉市日本語応指導教室ホームページ	P.3
『日本語教育応指導学級担当教員』とは？	P.4
各校との連携	P.4
日本語応指導教室の原則	P.5
連絡協議会・説明会	P.5
担当者の在籍校での校務分掌関係	P.6
日本語担当者・ブラジル人講師 内部規程	P.6

◎ 個人調査票 内容改定
(調査項目)

学 年	学 校 名
名 前	国 籍
母 語	性 別
正 式 名	生 年 月 日
ス テ ッ プ	在 留 資 格
住 所	母 語 力
来 日 時 期	在 籍 ま で の 経 緯
卒 業 後 の 希 望	健 康 状 態
出 席 状 況	宿 題 ・ 準 備
学 習 塾 ・ 習 い 事	家 族
親 類	父 親 の 国 籍
母 親 の 国 籍	会 社 ・ 仕 事
保 険 有 無 ・ 種 類	公 的 扶 助
保 護 者 の 日 本 語 力	学 校 行 事 へ の 参 加
帰 宅 時 家 族 在 宅 状 況	
連 絡 先 ・ 連 絡 可 能 時 間 帯	
連 絡 で き る 友 だ ち	

平成24年度 外国人児童生徒 個人調査票

学年	1	備考① 会社・仕事；H24 4月～岩倉市教育委員会
学校名	岩倉東小学校	
名前		
国籍	ブラジル	
母語	ポルトガル語	
性別	女	
正式名		
生年月日	2005 12 17	備考② 公的扶助；母子保護
ステップ	0	
在留資格	永住者	
住所	東新町仲浦1番地 岩倉団地	
母語力	話せる	
来日時期	日本生まれ	
在籍までの経緯	日本(他市町より)	
卒業後の希望	高校進学	
健康状態	アレルギー	
出席状況	未記入	
宿題・準備	未記入	備考③前年度分までの必要事項を残す特になし
学習塾・習い事	未記入	
家族	母子 兄弟	

◎ 担当者会・研修会（詳細は、別紙－担当者会記録を参照）

※ 担当者会で話し合ったことは、在籍校の校長先生・教務主任に報告。
教育委員会へは、村瀬から報告。

○ 担当者会の進行

- ① 各担当者からの報告・課題（責任校・巡回校・初期指導）
- ② 各担当者からの報告（研究内容・開発教材など）
- ③ 共通理解を図るべき事項の検討
- ④ 担当者会 会場校 校長先生からの御指導

○ 各担当者は、それぞれの役割分担に従って、下記の内容を行う。

- ① 教材・テスト作成
- ② 指導法・指導内容の研究
- ③ 児童生徒の日本語力状況確認及び指導時間割の見直し
- ④ 翻訳文書作成

※ ブラジル人講師は、随時、話し合いに参加し、翻訳文書の作成をする。

★ 個人レベルの研究も各自、自主的に進めていく。

・ 担当者会 毎週 火曜日実施 ・ 研修会 毎週 水曜日実施

◎ 外国人児童生徒 追跡調査(H13～H24) 作成（別紙）

平成15年度入学			平成15年度 小学1年			平成16年度 小学2年			平成17年度 小学3年			平成18年度 小学4年			平成19年度 小学5年			平成20年度 小学6年			平成21年度 中学1年			平成22年度 中学2年			平成23年度 中学3年			備考
氏名	国籍	来日時期	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
氏名	ブラジル	入学前	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	誠信高校
氏名	ブラジル	入学前	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	ブラジル人学校
氏名	ブラジル	入学前	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	ブラジル
氏名	ペルー	入学前	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	誠信高校
氏名	ブラジル	小3																												岩倉総合高校
氏名	ブラジル																													
氏名	ブラジル	小6																												就職
氏名	ブラジル	日本生																												就職
氏名	ブラジル	入学前	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	横花学園高校
氏名	ブラジル	小3																												就職
氏名	ブラジル	日本生	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	家事手伝い
氏名	ブラジル	日本生	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	北	家事手伝い
氏名	ブラジル	日本生																												豊山町→再転入
氏名	ブラジル	小3																												東海工業専門学校
氏名	ブラジル	中3																												小牧高校 定時制
氏名	ブラジル	中2																												一宮東義徳学校
氏名	ブラジル	小5																												就職
氏名	ブラジル	小1																												誠信高校
氏名	ペルー	入学前	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	東	ペルー→再来日→犬山

◎ 各校での巡回担当者会（1学期実施）

- 事務局や担当者在籍校で行っている担当者会を市内7校の学校で行い、各校の連絡協議会メンバーだけでなく、校長先生や養護教諭・担任の先生方との意見交換をし、多方面の意見を今後の活動に取り入れていくことを目的に実施。

○ 参加者

- 校長先生（教頭先生）
- 養護教諭
- 日本語担当者10名
- 教務主任
- 外国人児童生徒の担任
- ブラジル人講師2名



◎ 保護者への発信 学校から保護者の方への情報発信の充実

- ホームページ Homepage
<http://www.iwakura.ed.jp/nihongo/E29.htm>
学校行事予定をスマートフォンやタブレットからも閲覧できるように。

- ボイスボックス Voice box

◎ 通訳配置

- ポルトガル語・スペイン語・中国語・フィリピン語通訳の配置
- ・ 保護者会，就学時検診，1日入学，随時

◎ 平成24年度 日本語能力試験 受験結果(7月・12月)

- ・ N1(旧1級) 合格者・・・ 5名 (受験者7名中)
- ・ N2(旧2級) 合格者・・・ 6名 (受験者7名中)
- ・ N3(旧3級) 合格者・・・ 4名 (受験者6名中)

※ 21名の受験者中・・・合格15名，不合格6名

◎ 国際理解

○ 南部中フェスティバル (母国の紹介)

(生徒の感想)

私は、南フェスの日にブラジルのことを発表しました。私は緊張しすぎて早口になってしまったけど、クラスの人や他の人に自分の国のことを少しでも話せてうれしいです。

私のクラスでもあんまり興味がなかった人も私がポルトガル語を話しているときに何を話しているの？って聞いてくれるようになりました。ポルトガル語と日本語が話せるなんていいなとも言ってくれてとってもうれしかったです。みんなが少しでも興味をもってくれてとってもうれしかったです。



○ 東小の取り組み

○ 運動会

日本語の放送に加え，ブラジル人児童（6年生）2名が，ポルトガル語での案内を行った。

○ 学芸会

「外国人児童に自信をつけさせたい」「自身のルーツや母語を肯定的にとらえてほしい」という願いから，外国人児童が活躍できる場を設ける，劇中に母語でのセリフを入れる等の配慮をした。

- ・ 2年生…ブラジル人児童が多いことから，劇の冒頭にサンバを入れた。
- ・ 4年生…フィリピン語，スペイン語，ポルトガル語でのセリフを入れた。
- ・ 5年生…ダンスを多く取り入れた劇で，外国人児童のリズム感のよさやダンスの上手さが際立った。

このような取り組みに対し，外国人児童の保護者から感謝の言葉が寄せられた。



○ 東っ子フレンズフェスティバル

外国人児童の多い学校の特色を生かし、外国の食べ物を提供した。

目的は、日本人児童や保護者に、外国の食べ物を体験してもらうとともに外国人の保護者に、学校のPTA活動に協力してもらう場をつくること。

ブラジルのお菓子「ブリガデイロ」を、ブラジル人児童はとても楽しみにし、ブラジル人保護者も顔をほころばせて食べていた。日本人児童・保護者にも好評だった。

また、これを見たペルー人保護者が「うちにペルーのお菓子がある。ぜひみなさんに食べていただきたい」と、「アルファホレス」というお菓子を家に

この取り組みはアンケートでも好評であった。



○ 二分の一成人式

司会を日本語とポルトガル語で実施した。その際、ブラジル人児童だけではなく、日本人児童もポルトガル語で一言司会を行った。

「自分の夢」の発表や「自分にとって『生きる』ことの意味とは」といった発表の際、外国人児童は基本的には日本語で発表したが、保護者に伝わるようにポルトガル語で一言添える児童もいた。



◎ 学校生活と日本語教室についての説明会

Orientação sobre a vida escolar e da sala de aula de reforço de japonês

- 1 ①日時 平成23年4月19日(木) 14:20 - 15:30
会場 岩倉市立南部中学校 第2音楽室

- ②日時 平成23年4月23日(月) 14:50 - 15:50
会場 岩倉市立岩倉東小学校 日本語教室

- 2 対象 外国人児童生徒の保護者

- 3 内容

- ①日本の学校について

Sobre a escola japonesa

- ②日本語・ポルトガル語適応指導教室について

Sobre sala de adaptação e instrução de japonês e português

- ③日本語能力試験や中学校を卒業した後について

Sobre o exame de capacidade da língua japonesa ou sobre o caminho a seguir depois da formatura do ensino fundamental

- ④相談会

Reunião de consulta



◎ 平成 25 年度新入児 入学オリエンテーション（一日入学時に実施） Explicação sobre o ingresso escolar para os novos alunos de 2012

- 1 日時 平成25年 2 月 6 日（水） 13:30 - 15:15
Data: 6 de Fevereiro de 2012 13:30 - 15:15
会場 岩倉市立岩倉東小学校 日本語教室
Local: Iwakura - Higashi shougakkou
Sala de reforço da língua japonesa (1 ° andar do prédio sul)
- 2 対象 平成 25 年 4 月から岩倉市内の小学校に入学する外国人児童生徒の保護者
Convidados: Pais ou responsáveis dos alunos estrangeiros que ingressarão na escola japonesa de Iwakura a partir de abril de 2012.
- 3 内容 ①日本の学校について
Conteúdo: Orientação sobre a escola japonesa
②日本語・ポルトガル語適応指導教室について
Sobre sala de adaptação e instrução de japonês e português
③質疑応答
Perguntar as dúvidas

○ 目的

- ・ 保護者並びに入学予定者に小学校の様子を知ってもらい、入学準備の参考にする。
- ・ 日本の学校に入学するにあたっての心構えをもってもらう。
- ・ 保護者と教師で協力体制を作るきっかけにする。
- ・ 日本語教室について理解してもらう。



◎ 情報提供会 ～外国人児童生徒の将来について～

Convite para a explicação do caminho a seguir depois da formatura do Ensino fundamental

○ 外国人児童生徒の定住化に伴い、高校進学や就職についての情報発信と意見交換会を設定。

◆ 日 時：平成 24 年 3 月 12 日(火) 15:30 ～ 16:30

◆ 場 所：南部中学校 第 2 音楽室（本館 3 階）

◆ 対 象：中学校 1 年生 外国人生徒
※希望する中学校 2 年生の外国人生徒も参加できます。

外国人児童生徒の保護者で来られる人

◆ 内 容：①中学校を卒業したら（進学と就職について）

Depois da formatura do ensino fundamental(ensino médio e trabalho)

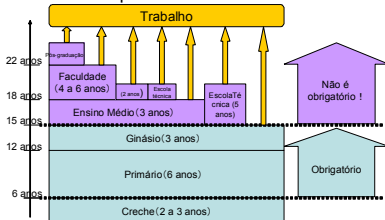
②進路決定までの流れ Até a decisão do caminho a seguir

③卒業生の体験談 Experiências dos ex-alunos

④質疑応答（個別相談対応） Esclarecimento de dúvidas particularmente

1 Depois de formar no Ensino fundamental

Escola do Japão



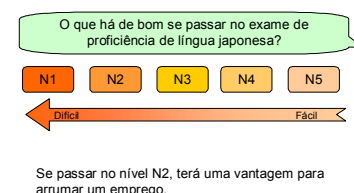
2 Ingresso escolar

Quanto vai custar para estudar no ensino médio?

	público Integral	público vespertino	particular Integral
Total necessário para poder matricular (fev a abril)	¥150,000	¥5,000~ ¥10,000	¥500,000
★mensalidade	¥12,000	¥2,700	¥40,000
Total que foi gasto em 1 ano	¥520,000	¥35,450	¥600,000 ~1,000,000

A partir de abril de 2011, o governo começou a ajudar o mensalidade do colégio. Tem ajuda de despesa escolar (¥9,900) por mês. Por isso, despesa anual vai ser ¥120,000 menos do que o preço da tabela da cima.

Exame de proficiência de língua japonesa



○ 卒業生の体験談

- 自己紹介
南部中学校を卒業後、小牧南高校へ進学・卒業。
秋田県の大学へ進学予定。
出身：ブラジル 来日時期：中学2年生
- 中学のときにして良かったこと
部活・勉強を一生懸命やったことが良かった。部活動での成績は良かったわけではないが、充実した日々を送ることができた。進学のためには、勉強は必要だと思うとアルバイトぐらいしかなく難しいから最低限、高校は卒業してほしい。
- 中学の時にしなければ良かったこと
ストレスがたまり、あまりよくない友達と関わり、遅刻をしたこともあった。
- 将来の夢
まだはっきりは決まっていらないが、通訳になりたい。でも、今は大学に行き、はっきりとした夢をみつけない。
- 中学生のみんなに伝えたいこと
勉強は嫌だと思うけど、勉強だけが全てではない。例えば、部活をがんばって、良い成績を残して進学もできるし、プロの選手にもなることも一つの道。勉強だけが全てではなく、色々な道があることを知ってほしい。

- 自己紹介
南部中学校卒業後、1年間アルバイトをし、その後アルバイトをしながら、ブラジル人学校へ。現在、ブラジル人学校で高校2年生。来週、ブラジルに帰国予定。帰国後は高校を卒業し、大学へ進学予定。
- 中学のときにして良かったこと
友達ができたこと、先生と仲良くできたことが良かった。
- 中学の時にしなければ良かったこと
部活はサボらない方がいい。
- 将来の夢
音楽が好きだから、大学も音楽関係に進み、将来も音楽関係の仕事に就きたい。
- 中学生のみんなに伝えたいこと
夢は大切。
夢に向かって勉強等がんばってほしい。

